

中国語で誤解しないように (第151回)

「看過」

日本語の「看過」には、ある物事を、たいした事ではないとして「見逃すこと、大目に見ること」との意味と、ある物事を「見過ごすこと、見落とすこと」との意味の2つがあります。「見逃すこと、大目に見ること」の用例は、「納税者の一人として、このような無駄使いは看過することは出来ない」や「彼の過失を看過することは出来ない」であり、「見過ごすこと、見落とすこと」の用例は、「子供が禁止区域に入り込んだことを看過した」「その条項の重要性を看過した」などです。

「見逃す、大目に見る」の中国語には、『饶恕』や『不加追究』との表現であり、「見過ごす、見落とす」は、『忽视』『没看出来』『忽略过去』などの表現があります。「納税者の一人として、このような無駄使いを看過することは出来ない」は、『作为一个纳税人,我绝对不能饶恕这种浪费』、「彼の過失を看過することは出来ない」は『不得不追究其他的错误』となります。一方「子供が禁止区域に入り込んだことを看過した」は『忽视一个小孩子进入了禁区了』となり、「その条項の重要性を看過した」が『我没看得出来那个条款的重要性了』となります。

一方中国語の『看过』はこれで単語とはならず、『動詞+过』の表現で、「動詞の意味が過ぎ去ったこと」を意味しており、『看+过』で「見たことがある」、「読んだことがある」の表現となります。「私は魯迅の“阿Q正伝”を読んだことがある」が『我看过了鲁迅的“阿Q正伝”』であり、「手紙を読み終えると、彼は物思いにふけた」が『看过信,他陷入了沉思』となります。

なお中国の四字熟語として『熟视无睹』というのがあります。これは「よく見ていながら関心がないので目に入らない」との意味であり、日本語の「看過する」や「無視する」に当たります。用例としては、『因为随便破坏公物、乱扔垃圾的人太多、连公安也对此熟视无睹』があり、これは「気軽に公共物を壊したり、所かまわずゴミを捨てる人が多いので、公安もそれを見過ごしている」との意味になります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第152回)

「対面」

「対面」の日本語には、「顔を合わせる、面会する」とことと、「面と向かい合う」という2つの意味があります。「初対面」とは「初めて顔を合わせる」との意味であり、「対面交通」とは「一本の道路で向かい合ってすれ違う双方向の交通」との意味です。

「顔を合わせる、面会する」ことを中国語で『见面』『会面』で表現します。用例

として「初対面」を中国語で『初次见面』『第一次见面』、「彼ら兄弟は20年振りに対面することが出来た」が、『他们兄弟隔了20年、才能见了面』、そして「彼は初めて取引先の社長と対面した」が、『他第一次会见了顧客的总经理』となります。一方、「面と向かい合う」との場合は中国語でも同じ『対面』で表現します。この用例は、中国語の『対面』で挙げましょう。

中国語の『対面』は、「面と向かい合う」との意味と併せ、「真向かい、向こう、向こう側」などの意味があります。日本語の同じ意味を持つ「面と向かい合う」の用例は、「彼ら二人は対面して座っている」が『他们俩对面儿坐着』であり、「対面交通」は、中国語で『対面通行』或いは『双向通行』と表現します。

「このことは彼ら本人同士が対面して直接話し合わねばならない」との表現がありますが、日本語では「対面」より「面と向かって」との表現が普通であり、「このことは彼ら本人同士が面と向かって直接話し合わねばならない」となるでしょう。中国語では『这还得他们本人直接对面谈』となります。

「真向かい、向こう、向かい側」の用例としては、「彼の家は私の家の真向かいにある」が『他家就在我家的对面』、「向こうから李君が来る」が『对面来了小李』、「銀行は郵便局の向こう側にある」が『银行在邮局的对面』です。

「対面」という言葉は、日本語も中国語もほとんど同じですが、ちょっとしたニュアンスの差があるところが面白いと思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第153回)

「外地」と「外人」

日本語での「外地」は「外国」のことですが、中国語の『外地』は「自分の土地以外の土地」を意味し、「外国」のことを『外国』または『国外』と表現します。従って「外地に赴任する」が『到国外去赴任』、「外地勤務する」が『在国外工作』、「外地手当」が『国外津贴』となります。

「自分の土地以外の土地」とは「よその土地」或いは「よそ」の意味ですから、日本語で「私の子供はよそで働いています」との場合は、『我的孩子在外地工作』と表現し、「彼はよそから引っ越してきた人だ」は『他从外地搬来的人』と表現します。また「地方」という場合にも『外地』が使われ、「我々代表团は北京を三日間訪問してから、地方へ観光に行くことになっています」を『我们代表团将在北京访问三天、然后再到外地去游览』と表現します。

中国語で「外国」のことを日本語と同じく『海外』とも表現します。「海外華僑」はそのまゝ『海外华侨』であり、「海外の同胞」は『海外同胞』です。また昔は『海内豪杰 (国内の豪傑)』のように『海内』という言葉が存在し、「海外」に対応した

「国内」の意味でしたが、これは昔中国は四方を海に囲まれていたと考えられていたことからの言葉であり、現在「国内」は『国内』と称しています。

さて同じことが日本語の「外人」にも当てはまります。日本語の「外人」は「外国人」のことですが、中国語の『外人』は「自分の土地以外の人」を意味しており、「外人」のことはフルに「外国」を使って『外国人』と表現しています。「外国人登記」は『外国人登記』、「外国人教師」は『外国人教師』または『外籍教師』です。また「選手」とか「記者」などの「人」に相当する言葉が後に付く場合は、『外国人選手』『外国人記者』ですが、『外国選手』『外国記者』でも問題ありません。なお「在日外人」は『侨居日本的外国人』との難しい表現をとります。

中国語の『外人』は「その土地以外の人」と同義語の「よその土地の人」から普遍して、「親戚や友人でない人」との意味から「よその人」や「他人」、「関係のない人」、そして「部外者」「局外者」などの幅広い意味を持っています。

用例としては、「他人ではあるまいし、遠慮しないで下さい」が『我不是外人、请不要客气』、「今日は知らない人はいません。皆私の友達です」が『今天没有外人、都是我的朋友』、「この事は外部の人に絶対知らせないで下さい」が『绝对别让外人知道这件事』、「話しなさい、ここは内輪の人ばかりですから」が『你说吧、这里没有外人』などです。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第154回)

「仮設」

東日本大震災の津波で被災され家を失った方が「仮設住宅」に住んでいます。この「仮設」を中国語では『假设』と難しい『假』の字を使って表現します。辞書によると「仮設」とは(1)ある時期だけ臨時に設置すること、(2)想像によって物、場面などを作り出してみることに、並びに(3)数学・論理学の命題で、推理の出発点となる条件こと、「假定」「仮説」と同義語と記載されています。

(1)ある時期だけ臨時に設置することの用例の一つが「仮設住宅」であり、この「仮設」を中国語では『临时』で表現します。「仮設住宅」は『临时住宅』、「仮設工事」は『临时工程』、「仮設テント」が『临时帐篷』、そして「被災地に救護所を仮設する」が『在遭灾的地方设置临时救护站』となります。

(2)想像によって物、場面などを作り出すとの場合の「仮設」は、「仮に設定する」との意味であり、用例としては「小説の主人公は作者の意図により仮設された架空の人物である」が『小说的主人公是、由作者的企图作出来的虚构人物』と表現されます。

(3)の「仮設」は、日本語では同義語の「仮説」或いは「假定」の方が一般的に

使われています。この場合の中国語では同じ『假设』を使います。用例として「科学の仮説は往々にして真理を明らかにする前提である」が『科学上的假设往往揭示真理的前奏』、「幾何の問題の仮説を公式で表す」が『用公式表示几何问题的假设』などがあります。

扱って中国語の『假设』は上記の(3)と併せて、(2)の「仮に設定する」との意味と同じ意味を表現する用途があります。日本語で「仮に」或いは「若し」と前提に置いた使い方です。用例としては「仮に毎日10頁の本を読むとすれば、一年で相当多くの本を読むことが出来る」が『假设每天看十页书、一年也能看相当多的书』であり、「若し彼が来たら、明日朝出かけましょう」が『假设他来了、咱们明天早晨就走吧』です。中国語でよくお目にかかるのが、この『假设』の使い方です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第155回)

「把握」

日本語の「把握」は、「しっかりと理解する、手中に納める」との意味を持っており、その用例として「私はその文章を3回読んで、やっと内容を十分に把握することが出来た」、「彼は実情をよく把握している」、「社長は社内のことなら隅から隅まで把握している」などの表現があります。

この「把握」を中国語では『掌握』で表現しており、上記邦文は『我看了3次那文章、才能充分地掌握了内容』、『他对实际情况了如指掌』、『总经理对公司的情况、掌握得一清二楚』となります。『了如指掌』と『一清二楚』は共に四字熟語で、前者は「了とすること掌(たなごころ)を指すが如し」とのことで、「手中に納めた如くよく理解していること」を意味し、後者は「清楚」を「一に清、二に楚」と表現することで、「非常に明確で、はっきりしていること」を意味しています。

一方中国語の『把握』には、(1) 具体的なものを、しっかりと持つ、或いは掴む、(2) 抽象的なものを、しっかりと捕らえる、掴まえる、そして(3)として多く場合“有/没有”の後に置いて、成功の見込みや可能性、自信、勝算などを表現する場合に使います。

(1)の用例は、「運転手がハンドルを掴む」、「兵士が機関銃を持っている」であり、中国語で『司机把握着方向盘』、『战士把握着机枪』となります。『拿』でなく、『把握』を使うことで「しっかりと掴んでいる」、「しっかりと持っている」との感覚が伺えます。

(2)の用例は、「彼はあらゆる機会を捕らえて挑戦している」や「ファッション業界では、時代の流れを捕らえることが大切である」であり、『他把握所有机会、挑战它』、『在时装行业、最重要的是把握时代潮流』となります。

(3)の用例は、「この仕事は私がやってもよいが、余り自信がない」、「彼は成功の見込みがないことを、やったことがない」、「君は今度の大学入試に勝算はあるか？」であり、中国語の『有／没有＋把握』を使った表現は、『这个工作、我可以试试做、可没有把握』、『他从来不做没把握的事儿』、『这次的考大、你有没有把握吗？』となります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第156回)

「節目」

「節目」とは、竹や木材の節のあるところで、この「節目」には2つの意味があります。1つはこの「節目」そのものであり、中国語で『节眼』といいます。「節目の多い板」が中国語で『节眼多的板材』となります。もう1つの「節目」は、「結婚という人生の節目を迎えた」とか、「この懇親会ももう10年目を迎え、一つの節目の時期になる」などの、物事の「変わり目」や「転換点」の意味です。

この「節目」という変わり目や転換点は、中国語で『转折点』『阶段』『段落』で表わされます。「結婚という人生の節目を迎えた」は『迎接了结婚、这是人生的转折点』であり、「この懇親会ももう10年となり、一つの節目の時期になる」は『这个联欢会已经将近10年、是个关键的时期』です。また「このプロジェクトは第一期工事が終了し、全体として大きな節目を迎えた」が『这个工程结束了第一期、整个工程告一段落』、「この局面は新しい節目を迎えた」が『这个局面进入了新的阶段』です。

一方中国語の『节目』は、演劇、コンサート、そして放送やテレビの番組や演目のことです。劇場やコンサートで配付される印刷された「プログラム」が『节目单』であり、放送やテレビの「番組表」が『广播节目报』や『电视节目报』です。

例えば、『这次的文艺表演会包括独唱、合唱、民乐合奏、芭蕾舞等都在内、是古今中外的节目齐全的』が「今回の演奏会は、独唱、コーラス、民族楽器演奏、バレエ等が含まれ、古今東西の出し物が全て揃っている」であり、『今天晚会的节目很精彩』が「今晚のパーティの演目はたいへん素晴らしい」です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第157回)

「放心」と「安心」

広辞苑によると「放心」の日本語の意味として、一つは「ほかの事物に心を奪われ

てぼんやりすること」、そしてもう一つは「心にかけないこと、安心する」と説明されています。然し一般的に「放心」は「ぼんやりすること」が主体であり、「心にかけない、安心する」として使い方は、「どうぞご安心下さい」との意味で使う「何とぞご放心下さい」としてのみです。この「放心」の代わりに「放神」も使われます。

日本語には「物事に心を奪われて放心するぼんやり」とは別に、「あっけにとられて呆然とするぼんやり」があります。中国語にはこの「ぼんやり」の区別はないようで、「ぼんやりする」との中国語は、『发呆』『茫然若失』『精神恍惚』などで表現されます。「全焼した我が家を前に、家族はみな放心の状態で立ちつくしていた」が中国語で『面对着被大火彻底烧光的房子、全家人都呆呆地站在那里、呆然若失』であり、「彼はそこに放心した顔つきで立っていた」が『他精神恍惚的样子站在那里』です。

一方中国語の『放心』は「安心する」の意味であり、代表的な表現は「どうぞご安心下さい」という『请您放心吧』です。他の用例としては、『那么一来、你的母亲也会放心』が「そうになったら、貴方のお母さんも安心するでしょう」、『你放心、医生马上就来』が「安心しなさい、お医者さんは直ぐに来ますよ」です。

中国語の『放心』が日本語の「安心する」との意味であると、中国語の『安心』はどのような場合に使われるのかを説明します。日本語の「安心」は「心配や不安がなくて、心が安らかなこと」ですが、中国語の『安心』にはこのような意味が全くなくて、一つは「落ち着いている状態」であり、もう一つは「よくない考えを抱く」とのことで、日本語の「安心」とは全く違うことを認識して下さい。

「落ち着いている状態」の用例としては、『你们不要有顾虑、安心做工作吧』が、「君たちが心配することはありません、落ち着いて仕事をして下さい」であり、この「落ち着いて仕事をする」との表現は、「腰を据えて仕事する」「身を入れて仕事をする」と言い換えることが可能です。『你不要担心、希望你安心休养』も「心配しないで、ゆっくり静養して下さい」との表現となります。

一方『安心』には動詞としての使い方があり、この場合は「よくない考えを抱く」との意味です。用例としては『他安心不善、不可以相信』が「彼には悪巧みがあるから、信用出来ない」とか、『他安的是什么心吗?』が「彼は何をたくらんでいるのか?」の表現です。また『他安心耽搁着工作』は「彼は故意に仕事を遅らせている」と表現出来ます。この場合は「よくない考えを抱いて“故意に”或いは“わざと”やっている」とのことになります。

なお前出の『精神恍惚』の日本語の「恍惚」には、「彼女の歌声に恍惚とする」とのように、「うっとりする」との意味がありますが、中国語の『恍惚』は「ぼんやりする」との意味だけで、「うっとりする」意味はありません。この中国語は『为她的歌声、而心醉神迷』となります。

中国語で誤解しないように (第158回)

「用意」

日本語の「用意」は、「意を用いること」から「準備や支度をする」との意味であり、これから転じて「細かい所まで気を配る、注意する」との意味を持っています。これ以外に競走で「用意！ ドン」との合図に使われますが、これも「スタートする心構えをして、ピストルの発砲を待つ準備をしろ」と合図であり、準備する範疇に入ります。

「準備や支度をする」との中国語は『准备』『备好』『预备』などです。「用意が出来ている」が『准备好』、「用意万端が整った」が『准备齐全』や『万事齐备』、「まさかの時の用意に貯金する」が『存款以备不时之用』などです。

「細かい所まで気を配る、注意する」での使い方は、「注意」や「用心」でも表現され、中国語では『警惕』『注意』『防备』などで表されます。「災害に対する用意を怠らない」が『对灾害不能放松警惕』、「勉強に対する用意が足りない」が『对学习性的注意不够』、「事故に対する用意が不十分だ」が『发生事故的防备不齐』です。なお「用意！ ドン」は『预备！ 跑』といいます。

一方中国語の『用意』は同じ「意を用いる」でも、「用いる意図」を表しており、「狙い」「つもり」「下心」などの意味があります。その用例としては『我这样做的用意、你还不明白吗？』が「私がこうする狙いが何処にあるのか、君はまだ分からないのか？」、『你说这个话是什么用意吗？』が「君はどういうつもりで、こんな話をするのだ」、『他的用意不良』が「彼はよからぬ下心を持っている」などです。

「用意」は同じ「意を用いる」でも、日本語と中国語では、その用い方に若干の違いがあることが分かります。

中国語で誤解しないように (第159回)

「調理」

日本語の「調理」は、「料理を作る」との意味であり、中国語で『做菜』『烹调』『烹饪』で表現されます。「魚を料理する」が『做鱼菜』又は『做鱼』、「豚肉を使っているいろいろな料理を作る」が『用猪肉做各种各样的菜』、「調理人」が『厨师』、「調理場」が日本語も同じの『厨房』などです。従って「調理学校へ行って、調理場で、調理の先生から調理を習う」が『到烹饪学校、在厨房里、从烹调老师学做菜』となります。

一方中国語の『調理』には、料理を作る意味は全くありません。「バランスを考え

てやりくりする」、「養生する、保養する」、「しつける、手塩にかける」、「人を馬鹿にする、からかう」などの意味があります。

この用例としては、「バランスを考えてやりくりする」が、『調理伙食』が「食事の栄養のバランスを考えてやりくりする」、『他把十几个人的伙食、调理得很好』が「彼は十数人もの食事をたいへんうまく賄っている」、『调理有方』が「やりくりするのがうまい」など、「養生する、保養する」が、『调理身体』が「身体の養生をする」、『她因产后注意调理、身体恢复得很快』が「彼女は産後の養生に心がけたので肥立ちがたいへんよい」など、「しつける、手塩にかける」が、『这是我调理出来的女儿』が「これは私が手塩にかけた娘です」、『她很会调理孩子』が「彼女は子供のしつけ方がちゃんとしている」、『好好儿地调理调理他、让他老实一点』が「彼をうまくしつけて、少しはおとなしくさせねばならない」など、そして最後の「人を馬鹿にする、からかう」の用例は、『这个人经常调理人』が「この人は何時も人を馬鹿にしている」、『你可别调理我』が「あまり俺をからかうなよ」などです。

中国語の『调理』にはこのようにたくさんの意味があり、日本語と全く異なった使い方をしていますが、総じていうと、日本語の食べ物を調理するのに対して、中国語は人や物をあれこれと調理するのに使われるように見受けられます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第160回)

「相好」

日本語の「相好」は、仏の容貌の特徴である三十二相の「相」と、更に細かい美点である八十種好の「好」を組み合わせたもので、「顔つき」「顔かたち」「表情」を指すとのことです。これは中国語で『脸色』『面孔』『表情』です。

となると当然「相好がよい」との表現が出来そうですが、我々が通常「相好」という言葉を使うのは、「相好を崩す」という場合のみで、これは「顔をほころばせて大いに笑う」とか、「顔をほころばせて大いに喜ぶ」との意味で使っています。

「相好を崩す」は中国語で『喜笑颜开』『笑容满面』『笑了起来』などで表現出来ます。文章としては「孫娘に“おじいちゃん大好き”といわれて、厳格な父も思わず相好を崩した」が『面对“爷爷真好！”这个孙女的一句话、让古板正经的父亲乐得喜笑颜开了』となります。

中国語の『相好』は、この字の通り「お互いに好きになる」とのことから、「仲のよい友達」「親友」、そして「恋人」或いは「愛人」の意味に使われます。『相好的朋友』が「仲のよい友だち」、『这位是老李的相好』が「この方は、李さんの親友です」、『她是我上大学时的相好』が「彼女は私の大学時代の恋人です」などです。

中国語にこのような意味があるので、ある中国人は日本語の「相好を崩す」との表

現を見た時に、『崩坏相好的关系（仲のよい関係が崩れる）』と理解して、「男女の恋愛関係が壊れる」、或いは「仲よい友だちの関係が崩れる」意味だと思ったとのことです。日本語と中国語の漢字が持つ意味の違いを如実に表す例ともいえます。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第161回）

「配合」

広辞苑で「配合」を見ると、その字の通り「配り合わせる」の意味が基本であり、2種以上のものを組み合わせるとの意味となり、「組み合わせる」「取り合わせる」となっています。それ以外に「夫婦にする」「連れ添わせる」の意味があるとのことですが、現在では「彼と彼女を配合する」とか「彼に彼女を配合する」などと表現しませんので、これは古い使い方なのでしょう。

用例としては、「その模様は色の配合がたいへんすばらしい」、「これら肥料の配合は2対1にしたほうがよいでしょう」、「青、赤、黄の3色の配合如何で、何とも言えない色合いを出せる」などです。この「組み合わせる」「取り合わせる」との意味の中国語は、『配』の一字、または『调制』『调配』です。

中国語訳は、『那个花样的颜色配得非常好』、『这种肥料采用二比一的配制比较好吧』、『蓝・红・黄三种颜色的比例调配、可调出莫名其妙的颜色』となります。

なお「配合飼料」は中国語で『混合饲料』、「配合肥料」は『合成肥料』と称しています。

一方中国語の『配合』は、① 協力する、呼応する、② 適応する、歩調を合わせる、③ 似合う、ふさわしい、マッチするなどの意味を持っています。

①の用例が、『如果没有他们的协力、战胜这次的比赛是困难的』が「若し彼らの協力がなければ、今回の試合に勝つことは困難だ」、『为了解决这个问题、我们必须配合他们』が「この問題を解決するため、我々は彼らと協力しなければならない」、そして『配合他们、要前进吧』が「彼らに呼応して、前に進みましょう」であり；

②の用例が、『配合船期安排货物』が「船積に適応して、貨物を手配する」、『配合世界的形势、要开展我们的运动』が「世界の形勢に歩調を合わせて我々の運動を展開する」であり；

③の用例が、『西服和领带的颜色很配合』が「洋服とネクタイの色がよくマッチしている」、また『他们小俩口很配合』が「あの若い二人はたいへんお似合いだ」となります。

日本語の「配合」と中国語の『配合』で、大きく意味が異なっているのが非常に面白い点です。

・

中国語で誤解しないように (第162回)

「作為」

日本語で「作為」とは、「作為を施す」とか「作為の跡が残る」との表現があるように、ことさらに手を加えること、或いは何かに見せかけるために敢えて手を加えることを表現しています。また法的に「作為の行為」というと、人を殺すとか金を盗むとかの、積極的な行為を指しており、「不作為の行為」とは、失火を放置するとか立ち退きの指示をうけたのにそのまま居座るなどの、自ら進んで積極的な行動を起こさない行為を指しています。ここでは一般の「作為」を対象とします。

日本語の「作為」の例文としては、「彼は作為をするような人ではない」、「余計な作為を施して、天然の美しさをなくしてしまった」、「彼がこんなことをしたのは作為か偶然か分からない」などがあります。この中国語訳文は、『他不是那种好伪装的人』、『由于过分的雕琢、使其失去了天然的美』、『不知他这么做是故意的还是偶然的』です。日本語の文章如何により中国語訳で使う語彙が異なってきます。

さて中国語の『作为』には、① 行為、行動、② 成果、貢献、③ ～とする、～と見なす、④ ～として、～たる者として、などの使い方があります。

①の用例が、『他的作为根本不像一个社会人』が「かれの行為はまったく社会人としてふさわしくない」、『评论有个人时、首先要看他的实际作为』が「ある人を論評する場合は、先ず彼の実際の行動を見なければならない」であり；

②の用例が、『学生跟老师拼命学习、才会有所作为』が「学生は先生について一所懸命勉強してこそ初めて成果を挙げることができる」、『那个人虽然爬得挺高、实际上没什么作为』が「あの人は結構な地位についているが、實際上何の貢献もしていない」、『无所作为』が「何の成果もない」であり；

③の用例が、『这不能作为定论』が「これはまだ結論とすることはできない」、『把他作为自己的孩子看待』が「彼を我が子同然に扱う、我が子と同じに見なす」であり；

そして、④の用例が、『作为公民、应该遵守法律』が「国民として、法律を遵守しなければならない」、『作为领导、就应该以身体作则』が「指導者たる者は、身を以って手本を示さなければならない」となります。

なお法的な「作為」は中国語でも同じく『作为』であり、また『有积极的行动』とも表現しており、「作為的な行為」を中国語で『蓄意行为』と表現します。

中国語で誤解しないように (第163回)

「地道」

日本語の「地道」には、「ちどう」と「ぢみち」の2つの読み方があります。「ちどう」と読んだ場合の意味は、地下に掘って作った道、すなわち「地下道」のことです。中国の『地道』にも読み方が2つあり、『4声、4声(\\ \\)』と明確に2字を発音した場合は、日本語の「ちどう」と同じ意味となります。

この『4声、4声』で発音した場合の『地道』は、日本語と同じく「地下道」との意味がありますが、一般的に軍事用語として使う場合が多く、「地下壕」を意味しており、地下道や地下壕で戦う戦闘を『地道戦』と称しています。

「ちどう」は「地下道」以外に使いませんので、今回対象とするのは「ぢみち」と読んだ場合の「地道」です。日本語の「ぢみち」には2つの意味があり、1つは普通で歩くこと、または馬を並足で進ませることで、「地道で前進せよ」と言ったら「普通で歩いて進め」との意味となるでしょう。現在ではこのような言い方はせずに「並足での前進」というでしょう。

日本語の「地道」のもう1つの意味は、元来の普通で歩いたり、馬を並足で進めることから転じて「余り変わったことをせず、手堅く着実に物事を進めること」や「当たり前前行動をとること」を意味するようになりました。「地道なやり方が最も安全だ」、「地道に暮らす」や「地道に働くことが最も肝要だ」などです。中国語では『踏实的做法是最稳妥的』、『踏踏实实过日子』、『勤勤恳恳的工作是最必要的』と表現され、『踏实』や『勤恳』が対応する中国語となります。

さて中国語のもう一つの『地道』は、『4声、轻声(\\ ·)』と発音した場合で、① 本場物である、正真正銘である、② 純粹、生粋、③ 質がよい、しっかりしている、等々の意味を持っています。

①の用例が、『这是地道生药』が「これは本場物の生薬だ」、『这是地道的中国丝绸』が「これは正真正銘の中国シルクだ」であり；

②の用例が、『他虽说是日本人、会讲一口地道的北京话』が「彼は日本人というけれど、純粹な北京語を話すことができる」、『他是地道的东京人』が「彼は生粋の江戸っ子だ」であり；

③の用例が、『这个东西真地道』が「この品はほんとうに質がよい」、『他干活儿真地道』が「彼の仕事は真にしっかりしている」となります。

元来あった『地道』という漢字の語彙を、どのように日中で使い分けていったかのよい例のように思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第164回)

「配分」と「分配」

日本語には「配分」と「分配」という似た2つの言葉がありますが、それぞれ意味が異なります。「配分」は、配り分けるとの意味から、単にそれぞれに配ることや割り当てることを意味しており、一方「分配」は分けて配るとの意味から、それぞれの持分や能力に合わせて配ることを意味しています。

用例としては「配分」が、「遺産を配分する」、「長距離競争では、力の配分を考えて走らねばならない」、「これを皆へ適当に配分しなさい」などがあり、中国語で『分配遗产』、『在长距离赛跑、必须考虑匀着劲儿跑』、『把这个适当地给大家分一分吧』となります。

一方「分配」の用例は、「財産を子供たちに平等に分配する」、「教育・文化に重点を置いて予算を分配する」、「利益は出資比率に基づいて株主に分配する」などであり、中国語で『把财产均分给孩子们』、『以教育・文化为重点来分配预算』、『依据出资比例、分配盈利给股东』となります。

「配分」も「分配」も中国語では、『分』または『分配』となります。中国語には『配分』という言葉がないので、『配分』の場合はその状況に応じ『匀』という言葉も使われる次第です。『匀』は「均等である」との意味と併せ「ならず、都合をつける」との意味も持っています。

中国語の『分配』は上述のとうり、日本語の「分配、配分」の意味を持っていますが、もう一つ「仕事を割り当てる、職場へ配属する」との意味も持っています。用例としては、『按着员工的能力、合理分配工作』が「従業員の能力に応じて、合理的に仕事を割り当てる」、『服从公司分配、派到哪里就哪里去』が『会社の配属に従ってどこでも割り当てられた職場へ行く』などです。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第165回)

「処理」と「処分」

「処理」と「処分」は日本語も中国語も同じようなケースで使われますので、今回は結論を先に述べましょう。日本語の「処理」は対象が物事のみですが、「処分」は人間と物事の両方に使われます。一方中国語の『处理』は人間と物事の両方に使われますが、『处分』は人間のみです。この違いを理解して下さい。

日本語の「処理」も「処分」も、物事をさばいて始末をつける場合に使われます。日本語の「処理」は対象が物事のみなので、用例は「彼女は何事もきばきと処理する」、「この問題は簡単に処理出来ない」、「彼はあの難問題をきちんときれいに処理した」などです。

日本語の「処理」は中国語でも『处理』であり、ケースによって『整理』も使われ

ます。上述用例の中国語は、『她把什么事都处理得很麻利』、『这个问题不可以草率地处理』、『他把那个困难的问题整理得井井有条了』となります。なお仕事でよく使われる「事後処理」は『善后处理』といいます。

なお「熱処理」や「化学処理」のように、ある過程で処理を施して、性質を変える場合にも「処理」が使われており、中国語もまったく同じ表現で、『热处理』『化学处理』と表現しています。

日本語の「処分」の用例は、「いらなくなった古新聞を処分する」、「この品物の処分は彼に任せよう」と物事を対象とした場合と、「会社は社則違反を犯した工員を処分した」、「カンニングをした者は嚴重に処分する」のように、人間を対象とした場合の両方に使われます。中国語では対象が物事の場合は『处理』が使われて、『把这些不要的报纸处理一下』や『委托给他这个东西的处理吧』となり、対象が人間の場合は『处分』と併せて『惩罚』などの罪を罰する言葉が使われて、『公司处分了违反员工守则的工人了』や『对考试作弊者严重惩罚』となります。

一方中国語の『处理』の対象は物事と人間の両方であり、用例としては、対象が物事の場合が『把这些不要的旧报处理一下吧』や『可不可以我自己处理这个问题么?』であり、対象が人間のほうが『他坦白彻底的话、可以得到公安的宽大处理吧』や『关于这个问题、妥善处理他吧』となります。物事の場合は「処理」及び「処分」が使われて、「この溜まった要らない古新聞を処分してくれ」や「この問題は、私が処理してよいですか?」となり、人間のほうが「処分」のみが使われて、「彼はほとんど白状すれば、公安の寛大な処分を得られるだろう」、「この問題について、彼を然るべく処分する」となります。

なお中国語の『处理』には、「安く売り払う、在庫品を処分する」の意味もあり、『他最后处理了积压商品』が「彼は最終的に在庫品を安売り処分した」、『商店处理了积压冬衣』が「商店が在庫の冬物衣料を処分した」のように使われます。

中国語の『处分』は人間のみが対象であり、用例は『免于刑事处罚』が「刑事処分を免じる」、『给予开除处分』が「除名処分にする」などであり、人を罪に処する場合の処分に使われています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第166回)

「通達」

日本語の「通達」には、「3か国語に通達している」とか「米国経済に通達している」など、深くその道に通じているとの意味と併せて、「政府の通達」や「総務部の通達」のように、上部機関が所管の機関へ発する指示の2つの意味があります。

この「彼は3か国語に通達している」とか「彼は米国経済に通達している」との表

現は、現在では「通曉している」とか「造詣が深い」と表現するケースが多いようです。この場合の中国語は『通曉』或いは『精通』が使われ、『他通曉三个语言』とか『他精通美国的经济情况』となります。

また上部機関の指示の用例は、「最近汚職事件が多発しており、政府は綱紀肅正の通達を出した」や「大津波への対応策が所管官庁から市町村へ通達された」があり、この中国語には『下达通知』や『转达通告』が使われ、上記は『最近不断发生了贪污案件、政府下达了整顿规律的通知』、『所管行政机关转达给市县镇应付大海啸的通告了』となります。

一方中国語の『通达』の意味は、物事の道理に通じているとか、人情をよくわきまえている場合に使われており、『他很通达事理』とか『他是个通达人情的人』と表現されます。前者は「彼は物事の道理によく通じている」であり、後者は「彼は人情をよくわきまえた人である」です。

「上部機関の指示」との用法は日本語のみですが、「通達」を「よく知っている」との意味で使用する場合は、日本語も中国語も用法は同じであり、ただ日本語の対象が「具体的な物事」であるのに対し、中国語の対象が「道理や人情」である点が異なっています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第167回)

「投機」

広辞苑を見ると「投機」には、我々がよく知っている「損失の危険を冒しながら大きな利益を狙ってする行為」と併せて、「禪宗に於いて、師匠と弟子の働きが一つになること」との説明がありました。中国語の『投机』には、日本語の「気が合う」とか「うまが合う」という意味があり、どうやらその語源は禪宗に於ける師匠と弟子の働きが一つになるとの意味から来ているようです。

「投機」が損失の危険を冒して大きな利益を狙う行為との意味は、日本語も中国語も同じです。「投機に手を出す」が『搞投机』、「投機が当たる」が『投机得利』、

「投機に失敗する」が『投机失利』、「投機心を煽る」が『煽动投机心理』など、そのまま『投机』で表現されます。なお中国語で『投机份子』が「日和見主義者」のこと、『投机家』が「相場師」のことを指し、『投机取巧』というと、「チャンスを狙って甘い汁を吸う、チャンスを狙ってうまく立ち回る」との意味があります。

さて日本語にはない、中国語の『投机』が持つ、「気が合う、うまが合う」の用例として、『我们俩一见如故、谈得十分投机』が「我々二人は初対面ながら、旧知のように話に花を咲かせた」であり、『俩人越谈越投机了』が「二人は話せば話すほどうまが合った」です。

なお『談得投机』が「話が合う」ですが、『話不投机』というと「話が合わない」との意味になります。中国語の諺に『酒逢知己千杯少、話不投机半句多』というのがあり、「親しい友と酒を呑めば、千杯呑んでも少なく感じるが、気が合わない人と話をしたら、半句の言葉を交わしただけでも嫌になる」とのことです。宴会でお互いに杯を重ねている時に、今晚はこのようにたくさん酒を頂いて楽しく過していますとの気持ちから、この『酒逢知己千杯少』との句を言うと、相手は必ず『話不投机半句多』と返してくれて、今日は親しい友達を酒を呑んでいろいろ話が出来て非常に楽しいですねとの気持ちを伝えてくれます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第168回)

「下地」

日本語の「下地」にはたくさんの意味があります。(1)物を作ったり、ある仕事をする前の基礎、(2)生まれつき備えている性質や素質、(3)味付けの基となる出し汁、(4)その上に絵を描いたり、表面塗装をして仕上げをする前のベースとなるものなどです。

(1)の用例は、「この国には民主主義を受け入れる下地がない」とか「ふだんから調べているので、作業開始の下地は出来ている」で、中国語では『基础』が使われます。中国語訳は『这个国家还不具备接纳民主主义的基础』、『因为平时做过调查、所以已有开始工作的基础』です。

(2)の用例は、「彼の母親は音楽家なので、あの子には音楽の下地がある」とか「語学を得意としている人は、語学を学ぶ前にある程度の下地が出来ている」で、中国語では『素质』『素养』『前提条件』などで表現されます。中国語訳は、『他母亲就是音乐家、那孩子具有音乐的素质』、『擅长外语的人、在学外语之前、已具备一定程度的语言素养』です。

(3)の用例は、「料理の味の決め手は下地です」で、中国語で『好味道的诀窍是、做菜时的汤汁』となるでしょう。中国料理では、先ず下地を作り、それを使って料理をする方法を探らないので、「下地」に適應する中国語はなく、辞書で「下地」→「出し汁」を引くと『用海带、干鱼等煮出来的汤汁』となっています。

(4)の用例は、「化粧の下地」や「壁の下地」で、「化粧の下地」は『底妝』、「壁の下地」は『墙底』或いは『墙底子』です。

一方中国語の『下地』には、日本語の(1)～(4)の意味が全くありません。日本語の「下地」はこれで一つの単語ですが、中国語の『下地』は動詞+目的語の一つの語彙で、「畑仕事や野良仕事に出る」と「ベッドから起きて床に降りる」の2つの意味があります。

「畑仕事や野良仕事に出る」の用例は、『刚吃过饭、就下地去了』や『在农村、每天天一亮就下地、天黑才回来』であり、前者は「ご飯を食べたら、直ぐ野良仕事へ行った」で、後者は「農村では、毎日夜明けと共に野良へ出て働き、日が暮れるとやっとな家に帰ってくる」です。

「ベッドから起きて床に降りる」の用例は、『她刚生完了孩子、还不能下地』や『动过手术的腿好多了、已经能下地了』で、前者は「彼女は出産したばかりで、まだベッドから離れられない」であり、後者は「手術をした足がたいへん良くなり、もう起きて歩くことができる」です。

日本語の「下地」にはいろいろな意味がありますが、その基が「基礎」であり、中国語の方は、「地や床に足をつける」意味であることが理解出来ます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第169回)

「始末」

日本語の「始末」は、「始終」や「首尾」と同じく「最初と終わり」を意味する言葉ですが、意味は「始終」や「首尾」と異なっており、また「始末」にはいろいろな意味があります。(1) 事の次第、或いは顛末で、特によくない結果の場合に使う、(2) 整理すること、決まりをつけること、(3) つつましいこと、無駄をしないことなどです。

(1) の「事の次第或いは顛末で、特によくない結果の場合に使う」の用例としては、「彼は今回の始末について詳しく説明してくれた」や「彼等二人が離婚した始末をそれぞれ説明してくれた」、「こんな始末になってしまった」などです。この中国語は、日本語と同じ『始末』と併せ、事のいきさつを意味する『原委』、こんな結果や結末になったという『下场』が使われて、『他给我详细地说明了这回事的始末』、『他们俩分别告诉我、他们离婚的原委了』、『落得这样下场了』となります。なお規則に違反したり、失敗したときに日本では「始末書」というものを書かされますが、これを中国語で『检讨书』と言います。中国語の『检讨』は日本語で「反省する」の意味ですから、もうこんなことはしませんと提出する「始末書」は、正に「反省書」です。

(2) の「整理すること、決まりをつけること」の用例は、「自分の始末は、自分でつけねばならない」、「この書類は始末に困る」、「後の始末は私がする」、「この問題はほんとうに始末に負えない」などがあります。中国語は『自己的事情、应该自己想办法来解决』、『这文件难以处理』、『由我来收拾残局』、そして『这个问题、真难对付』と、それぞれ対応する語彙が異なってきます。

(3) の「つまましいこと、無駄をしないこと」の用例は、「もっと始末した生活をしよう」、「彼女は始末屋さんだ」、「鉛筆や紙を始末して使おう」などがあり、

中国語で『节约』や『节俭』が使われ、『我们要更节约地过日子吧』、『她是个节俭的人』、『节约使用铅笔和纸张吧』となります。

さて中国語の『始末』は、始めから終わりまでとの意味で、「顛末」や「事の次第」の意味しかありません。日本語の(1)の意味と同じですが、日本語の場合は結果が悪い事の次第や顛末であるのに対し、中国語の『始末』は結果の善し悪しは問題とになっていません。用例としては『把事情始末弄清楚』や『至今尚不详此事始末』があり、日本語で「事の次第をはっきりさせる」や「未だ本件の顛末は明らかになっていない」との意味です。

日本語も中国語も「顛末や事の次第」との意味では同じですが、これ以外の日本語の使い方は独特なものです。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第170回)

「手心」

日本語の「手心」は、「しゅしん」と発音せず、「てごころ」と読むことで、「手心を加える」とか「手心が必要」というように、状況や相手によって適当な措置や便宜を図る、又は手加減をする場合に使われます。「てごころ」と、訓を重ねて発音していることから、これは日本独自の使い方です。手に心を持たせるということは、手先で便宜がはかれますので、このような意味を持つようになったと思われれます。

「手心」の用例としては、「教師は採点に手心を加えてはならない」、「あの先生は女生徒とだからといって手心を加えない」とか、「彼は理解力が少し劣っているので、教えるのに手心が必要だ」、「彼女はまだ初心者なので、教え方に手心が必要である」などがあり、中国語の表現はそれぞれ『老師评分时、不得手下留情』、『虽说她是女学生、那位老師并不给她们特别的照顾』となり、また『因为他的理解力稍差、所以教时需要稍微酌量』や『她现在还是初学者、应该考虑酌情的教法』となります。

一方中国語の『手心』は、日本語の「たなごころ(掌)」や「手のひら」の意味があります。皆様がよくご存知の西遊記に孫悟空が筋斗雲に乗って飛び回っても結局お仏様の手のひらから飛び出すことが出来なかったという故事がありますが、この場合に『搭乘筋斗云的孙悟空、究竟不能跳出如来佛的手心来』として使われます。

このように力のある人の手の中に入ったらもうどうすることも出来ないとの意味から転じて、中国語の『手心』には、「手の中に入ったものを支配する、制御する」との意味があります。『他在我们的手心里、跑不了』が「彼は我々の手の中にあり、逃げ出すことは出来ない」であり、『把骨干成员都掌握在我的手心里』が「主要なメンバーを全て私の手の中に掌握した」です。

同じ漢字の語彙ですが、訓読みのみあることで、日本語と中国語の意味と使い方が

全く異なってしまいます面白い例です。

.

.

.

中国語で誤解しないように (第171回)

「縁故」

日本語の「縁故」は広辞苑によると「血縁や姻戚などの親戚」並びに「人と人の繋がりや係わり合いによる関係」と併せ、3つ目に「理由、原因」の意味があると記載されています。この前半2つの用例として、「彼女は私の縁故者です」、「私は東京から福岡へ来たが、ここには一人も縁故者がいない」、そして「今回は縁故者を優先採用する」や「縁故採用」があります。これを中国語では「彼女は私の縁故者です」が『她是我的亲戚』、「私は東京か福岡へ来たが、ここには一人も縁故者がいない」が『我从东京到福岡来了、但在这里一个人也没有亲戚』、「今回は縁故者を優先採用する」が『这次优先采用关系户』、また「縁故採用」だけだと『采用亲朋』と表現されます。日本語でよく使う「縁故をたどって」の中国語は『投亲靠友』と表現し、「私は縁故をたどって仕事を探した」は『我投亲靠友、找了工作』です。

なお「彼とは大阪で一緒に仕事をした縁故で親しくなった」との日本語は、『因为我和他在大阪一起工作、所以做了朋友了』となりますが、『在大阪一起工作的缘故、我和他做了朋友了』とも表現でき、これが3つ目の「理由、根拠」に相当します。

一方中国語の『缘故』は、3つ目の「理由、原因」の意味のみで、人と人の関係は全くありません。この用例は『还没收到他的回答、不知是什么缘故?』が「彼からの回答はまだありません、何故なのだろう?」、『头脑有点儿晕、也许是天太热的缘故吧』が「頭がくらくらする、多分非常に暑かったせいでしょう」、また『有了电车事故的原因、上班迟到了两个小时』が「電車事故があり、出社が2時間遅れた」となります。

.

.

.

中国語で誤解しないように (第172回)

「心得」

日本語の「心得」には4つの意味があり、1つ目は「社員心得」のように、その人が承知していなければならない事項、2つ目が「十分心得ています」との、事情をよく理解して処理すること、3つ目が「日本舞踊の心得がある」との、技能などを身につけているたしなみ、そして4つ目が「課長心得」などの下級者が仮に上級者の職務を行う場合の職名です。

この用例としては、1つ目の「社員心得」が『职工须知』、「生徒心得」が『学生须知』で、「入社式で社員心得の手帳を貰った」が『在入社式上收到了职工守则』、「先生が夏休中の心得を生徒に説明した」が『老师对学生说明了暑假中的注意事项』など、『须知』『注意事项』で表現します。

2つ目の「その件は十分心得ています」が『那件事、我心里十分明白』、「彼が万事心得ていますのでご安心下さい」が『他什么都懂得好、请放心吧』で、『明白』『懂得』或いは『理解』で表現します。なお「彼は自分のことを一体なんと心得ているのか？」が『他到底以为自己是什么呢?』となるような用例もあります。

3つ目の技能などを身につけているたしなみの「心得」は、「彼女は日本舞踊の心得がある」が『她有日本舞蹈的素养』、「私は些か日本料理の心得がある」が「做日本菜、我稍微懂得一点儿」など、『素养』、『懂得』を使います。然し「私は茶道の心得がない」との場合は『我是茶道的外行』です。

4つ目の「課長心得」のような役職の場合は、『代理科長』としかありませんが、一般的には『副科長』が妥当です。

中国語の『心得』は、仕事や学習などの活動を通じて会得した体験、知識、認識や収穫などを表現しており、日本語の「心得」とは全く意味が異なります。用例としては、『我这次到中国去、有很多心得』が「私はこの度中国へ行って、たいへん得るところがあった」、『我看了这本书、有很多心得』が「私はこの本を読んで、たいへん感銘を受けた」、『这是今天参观的我的心得』が「これは今日の参観で得た私の収穫だ」、『今天的上课后、你们要发表每个人的心得』が「今日の授業が終わったら、皆はそれぞれ得た感想を発表しなさい」となります。

中国語の『心得』の使い方は、まさに「その活動によって、心で得たもの」そのものですが、日本語の「心得」は、注意すべき事やたしなみなど、「活動によって身体が得たもの」であり、その違いが面白いと思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第173回)

「自愛」

日本語の「自愛」は、「いっそうご自愛下さるよう祈念申し上げます」のように、手紙の末尾に「病気や怪我をしないように自分で自分の体を大切にしよう努めて下さい」との意味で記載するものです。広辞苑を見ると、この「自らその身を大切にすること」との意味と併せて、「品行を慎むことや物を愛すること」との記載がありますが、現在の日本では自分が愛玩している品物を「自愛の品」と表現する位で、余り使われておらず、品行を慎む場合は「自重」と表現しています。

これを中国語の手紙用語として『祝愿您身体健康』、『请您多加保重身体』などの

表現があり、また古い手紙の表現として『谨此致函、希自珍摄』、『敬请保重为禱』のような表現もあります。

一方中国語の『自愛』は、広辞苑にある「品行を慎むこと」に適應した使い方をしており、名誉や体面を重んじること、軽率な行為を慎むことなどの「自重する」との意味に使われています。用例としては、『请你自愛一点儿吧』が「ちょっと自重しろよ」、『作为一个学者、写那本书、未免不自愛了』が「学者としてあのような本を書くとは、ちょっと軽率ではないか」、『他那么不知自愛、就没有办法了』が「彼がどのように分を弁えない以上、どうしようもないね」などです。

同じ自分を愛することですが、日本語が自分の身体や物を愛することであり、中国語が自分の名誉を愛する精神的なことなので、その違いに面白さを感じます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第174回)

「到底」

日本語の「到底」は、「到底出来ない」のように後に否定的表現を伴って「どうしても」「とても」「如何にしても」を意味する副詞として使われています。中国語で『无论如何也』或いは『怎么也』で表現されます。

用例としては、「到底私へは教えてくれないでしょうね」が『无论如何也不肯给我教吧』、「そんなこと到底信じられない」が『那样的事、无论如何也不能相信』、「今からやっても到底間に合わない」が『从现在做、怎么也来不极了』、「到底逃げ切れないだろうね」が『怎么也逃不了吧』であり、そして「語学力で私は到底彼には及ばない」が『语言能力来说、我跟他简直无法相比』となります。

一方中国語の『到底』は、いろいろな使われ方をしており、先ず動詞の後に付けて「徹底的に行う、あくまで～～する」との意味があります。この用例は『把改革开放政策进行到底』が「改革開放政策を徹底的に行う」であり、『要干就一竿子插到底、不能半途而废』が「やる以上最後までやり抜くべきで、途中で止めてはいけない」となります。

これと併せ、副詞として日本語の「とうとう、ついに」、「いったい、そもそも」そして「さすがに、なんと言っても」という3つの使い方があります。

1つ目の「とうとう、ついに」の用例は、『反复试验的结果、到底还是成功了』が「実験を繰り返した結果、とうとう成功した」、『我想了好久、到底明白了』が「私は長いこと考えて、ついに分かった」です。

2つ目の「いったい、そもそも」は疑問文に使うもので、その用例は、『你跟他们到底有什么关系？』が「君は彼といったいどんな関係にあるのだ？」、『你到底去不去？』が「そもそも君は行くのか、行かないのか？」です。但し『吗』の付く疑問文には使えず、従って『你到底去吗？』との表現は出来ません。

3つ目の「さすがに、なんと言っても」の用例は、『到底是北京、名胜古迹真多』が「さすがに北京だ、名勝古跡がほんとうに多い」、『到底还是小孩子、嘴里没有轻重』が「なんと言ってもまだ子供だから、言うことに分別がない」です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第175回)

「顔色」

日本語の「顔色」は、「がんしょく」との音読みはせず、「顔色がよい」とか「顔色を窺う」のように、「かおいろ」と訓で読むことが一般的であり、顔の様子を示す意味しかありません。「顔色がよい」という場合の「顔色」は、顔の様子そのものであり、一方「顔色を窺う」という場合の「顔色」は、機嫌の善し悪しや感情の動きなどを推測しようとして相手の表情を探る場合に使われます。

「顔色の善し悪し」とは、顔の血色やつやを示しており、その用例は、「元気な子は顔色がよい」が『健康的孩子气色好』であり、「彼女は最近仕事が忙しく少し疲れており、顔色が悪い」が『她最近工作忙、稍微累、脸色不好』です。従ってこの場合の「顔色」の中国語は『脸色』或いは『脸的气色』となります。

なお『顔色』を「がんしょく」と発音する例としては「恐怖のため顔色を失った」があり、この中国語は『由于恐怖脸色发青』或いは『由于恐惧面无人色』です。

また「顔色を窺う、顔色を見る」の用例は、「彼は自分の気持ちをよく顔色に出す人だ」が『他是经常把自己的心情表示脸上的人』であり、「彼はいつも人の顔色を窺っている」が『他是个经常看人的脸色』で、中国語は『脸』或いは『脸色』です。

一方中国語の『颜色』の意味は「色」であり、『那个画儿、颜色非常鲜艳』が「あの絵の色はたいへんあざやかである」であり、『你喜欢什么颜色?』が「貴方はどんな色が好きですか?」となります。

そして中国語の『颜色』には、『色』という字を使いながら全くその意味がない表現があり、『给~~颜色看』との形を取ることで「思い知らせる」「こらしめる」

「ひどいめに合わせる」という意味を持っています。用例としては、『给他点儿颜色看』が「彼をちょっところしめてやる」、『我一定要争口气、给他点颜色看』が「私は是非とも負けぬ気を出して、彼に思い知らせてやらねばならない」、そして競技に於ける『给对手一点颜色看看』が、日本語で言うと「相手に対して眼にものをみせてやる」との意味になります。この表現は『颜色』を「面子」と見なしたような表現に感じられます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第176回)

「算数」

日本語の「算数」は小学校の数学の授業に使われる用語で、昔は「算術」と言っていました。1941年から「算数」と呼ぶことに決まったとのこと。これが中学以降では「数学」となります。これは小学校では、先ず数を数えることを学ぶことから「算数 (arithmetic)」とし、中学校になると代数学と併せて幾何学や微分・積分などの解析学が含まれることから「数学 (mathematics)」になったものと思われれます。

「算数」の“算”は“数える”との意味ですから、「算数」には“数を数える”との意味があり、昔は計算が出来ないことを「算数に暗い」と表現していました。現在では小中学校が義務教育となり100%就学していますのでかかる表現はなくなり、「算数」といえば小学校の教科の事のみをさしています。

「算数」の中国語は『算術』であり、「算数が得意だ」は『擅长算術』ですが、教科書は『数学』となっています。因みに「算数に暗い」の中国語は『不懂计算』となります。

一方中国語の『算数』には、この語彙のとうりの「数を数える」の意味と併せて、“数の計算が出来た、或いは数の計算の中にある”との意味から敷衍したものと思われれますが、「数のうちに入れる、それでよいことにする、したことにする、有効にする」などの意味と、「約束は必ず守る、言ったことは必ず守る、責任を取る」などの意味があります。

一つ目の用例としては、『他说的不算数』が「彼の発言は数のうちに入れない」、『其它个别情况不算数』が「それ以外の個別な事情は問題外とする」、『学会了才算数』が「出来る様になったら、初めて習ったことになる」、『不到手不算数』が「手に入らないうちは、まだそれを得たことにならない」、『这个规定仍然算数』が「この規定は依然有効である」などです。

二つ目の用例としては、『你说的话、算数不算?』が「君が言った約束は、必ず守れるのかね?」、『说话要算数』が「言ったことは必ず守らねばならない」、『说了要算数』が「言ったことに責任を取らねばならない」などです。

中国語の数を数えるという『算数』が、中国人にとってこのような意義深い言葉として使われていることに、中国人の数に対する特別な思いがあるのだなどの感慨を覚えます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第177回)

「注文」

前回の『算数』には中国語にいろいろな意味がありましたが、今回は日本語の方にいろいろな意味がある言葉です。中国語の『注文』とは日本語の「注釈文」の意味であり、本などにある注釈文や注解のことで、これ以外の意味はありません。

日本語の「注文」は「ちゅうもん」と読み、「ちゅうぶん」とは読みません。日本語では、中国語の『注文』を「注釈文」として理解し、「ちゅうぶん」と読んで中国語と同じ使い方をすることをしませんでした。

日本語の「注文」には、品物を注文する場合と相手に何かを要求する場合に使います。品物を注文する場合の用例は、「料理を注文する」が『订菜、点菜』、「注文して作った洋服」が『订做的西服』、「ウエイトレスが注文したものをやっと持ってきた」が『女服务员终于把点的菜端来了』、「この商品はアメリカへ注文しなければならない」が『这个商品得向美国订购』などです。

また相手に何かを要求する用例は、「あれこれ注文が多い」が『这个那个的要求真多』、「これは難しい注文だがやってみよう」が『这是个难办的要求、不过试试看吧』、「むちな注文をつけるな」が『别提出无理要求』、「いちいち注文をつけられると困る」が『条件太多了，可实在不好办』などです。

「文」を「もん」と読むのは呉音で、「ぶん」と読むのは漢音です。呉音を使った語彙としては、文部省、文句、文盲などがあります。品物の注文も物事を要求する注文も、相手に何か要求することには違いがなく、また音読みであることからみて、或いは呉の地方に“要求する”という意味の「注文」という言葉があり、それが日本へ伝わって普遍的に使われ、一方“注釈文”の意味の「注文」は普遍的な語彙ではないので、この違いが出来たのかも知れません。これは私の勝手な想像です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第178回)

「批評」

日本語の「批評」は物事のよい点、悪い点や人間の是非などをあれこれ批評する場合に使います。中国語で表現する場合は、同じ『批評』を使う場合もありますが、一般的には『评论』、そして映画の批評の場合は専門用語の『影评』を使います。

日本語の「批評」の用例として、物事のよい点、悪い点を批評する場合の「この文章の批評を書いて下さい」が『请给这篇文章写个评论』、「私にはこの新刊書の批判をするだけの能力がない」が『我没有能力评论这本新书』、「批評眼のある人」が『有评论能力的人』などで、「新聞にあのアメリカ映画の批評が載っている」が『报纸上登载了那部美国电影的影评』です。

日本語と同じく『批評』が使われるのは、ある立場から若干厳しい批評を示す場合のようで、用例として、「正しい批評は進歩のために是非とも必要だ」が『正确的批评对于进步是很必要的』、「彼は十把ひとからげの批評をした」が『他不分青红皂白进行了批评』、そして「彼は常に非常に鋭い批評をする」が『他经常做非常犀利的批评』などです。

一方中国語の『批評』は、二つの使い方があり、一つ目はよい点や悪い点を批評したり批判する場合に使われ、前述のとうり日本語と同じく“批評”が使われる場合があります。用例としては、『做错了事，积极进行自我批评是很重要的』が「間違えたら、前向きに自己批判することが重要だ」、『他不爱劳动，但大家批评后改过来了』が「彼は怠け者だったが、皆に批判されてから改めた」、『有错误就批评、有长处就表扬』が「誤りがあれば批判し、よい点があれば褒める」などです。

二つ目の『批評』が使われるのは、誤りや欠点を批判する場合で、「批判する、叱責する」と日本語に訳されます。用例としては、『他经常迟到，受科长的批评』が「彼はいつも遅刻するので、課長に叱られた」、『大家都批评他的错误态度』が「みんなは彼の誤った態度を非難した」、『不要压制大众的批评』が「大衆の批判の声を押し潰してはいけない」などです。

日本語と中国語の「批評」という語彙にいろいろとニュアンスの差があることを知って頂ければと思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第179回)

「明白」

日本語の「明白」は、明らかで疑う余地がないほどはっきりしていることを表現しており、これを中国語では『明白』、『明确』或いは『明显』で表現しています。

用例としては、「その理由は極めて明白だ」が『那个理由极其明白』、「彼は明白に答えた」が『他明确地回答了』、「ダイオキシンの生態系への影響は明白である」が『二恶英对生态系統的影响是明显的』です。なお「警察は既に彼が収賄事件に関与している明白な証拠を掴んでいる」との文章は、『警察已掌握了，他参与受贿事件的明显的证据』となりますが、この「明白な証拠を掴んでいる」を『掌握了确凿证据』と表現することも出来ます。『确凿』とは“非常に確かである”との意味です。

中国語の『明白』は、上記の用例の日本語と同じ意味の(1)明瞭である、はっきりしている、公然であるとの意味と併せて、(2)分かる、分かっている、(3)物分かりがよい、話が分かる、賢明であるの3つの意味を持っています。

まず(1)の「明瞭である、はっきりしている、公然である」の用例は、『他讲得明白易懂』が「彼の話は明瞭で分かり易い」、『那天他明白地告诉我今天不能来』が「あの日、

彼は私に今日は来れないとはっきり言った」、そして『对我们的提议、他明明白白地表明不赞成的意思』が「彼は我々の提案に対して、公然と賛成しないとの意思表示をした」などです。

(2)の「分かる、分かっている」の用例は、『大家明白了么?』が「みなさん分かりましたか?」、『我这才明白了』が「私はこれでやっと分かった」、『这些我都明白』が「そんなこと私はみんな分かっている」などです。

(3)の「物分かりがよい、話分かる、賢明である」の用例としては、『他为人很明白』が「彼は人物として、非常に物分かりのよい人だ」、『他是个明白人，不用多说就知道』が「彼は話分かる人だから、言わなくても分かってくれる」、そして『看你样子象个明白人，怎么这么糊涂呢!』が「君は賢そうな顔をしているに、何故こうも物分かりが悪いのだろうか!」などです。最後の用例のようにこの意味する『明白』の反対語が『糊涂』になります。

日本語の「明白」に対して、中国語の『明白』に「分かる」との意味があるところまでは、その字から見てフォロー出来ますが、「物分かりがよい、話分かる」との意味まであるのが面白いところです。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第180回)

「糊涂」

日本語の「糊涂」は、「事件を糊涂する」とのように、一時しのぎにごまかしておくこと、曖昧に取り繕っておくことを意味しています。日本語の「糊涂」は中国語の『掩饰 (過ちなどをごまかす、粉飾する)』、『敷衍 (お茶をにごす、どうにか持ち堪える)』、『搪塞 (一時しのぎをする、その場を取り繕う)』に該当します。

日本語の用例としては、「自分の失敗を糊涂した」が『掩饰了自己的失败』、「現状維持の名のもとに、その件を一時糊涂する」が『在维持现状的名义下、把那件事敷衍一时』、そして「その件については、何とか表面を糊涂して納めてしまおうよ」が『那件事想办法搪塞过去、算了吧』などです。

一方中国語の『糊涂』は、「ぼけている、愚かである、物分かりが悪い、ぼんやりする」などの意味と、「はっきりしない、曖昧である」との意味があります。前者の用例としては、『别装糊涂!』が「とぼけるな!」、『我是老糊涂了，不中用了』が「私はもう老いぼれだから、役に立たなくなった」、『他那么个明白人，怎么办那么糊涂的事呢』が「彼のようにしっかりした人が、どうしてそんな愚かなことをするのだろうか」、『他越解释，我越糊涂』が「彼が説明すればするほど、私には分からなくなる」、そして『我一时糊涂，把委托的事弄错了』が「私は一時ぼんやりしてしまい、頼まれた仕事を間違えた」などです。

後者の「はっきりしない、曖昧である」の用例は、『字迹糊涂』が「文字がはっきりしない」、『这本书印得很糊涂』が「この本の印刷はたいへんぼやけている」などです。ほとんどこういう使い方をしません。こういう場合は、普通、“模糊”という言葉を使います。“字迹模糊”“这本书印得很模糊”と言います。

日本語の「糊塗」は故意にその場を取り繕うことですが、中国語の『糊涂』は人間自体がその理が分からない、ぼけている愚鈍という意味になります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第181回)

「实在」

日本語の「实在」は実際に存在していることを表しています。人間世界には想像、観念、或いは幻覚などの主観的に存在するものがありますが、「实在」とは客観的に実際に存在しているものであり、中国語で『实际存在』といい、人間や物事に関する場合は『实有其人』や『实有其事』となります。用例は下記の通りです。

- * 「このドラマはフィクションであり、实在の人物や団体とは関係ありません」が『这个故事是虚构的、和实际存在的人与机关没有什么关系』。
- * 「この小説のモデルは实在している」が『这本小说的典型人物是实有其人的』。
- * 「あの事件は实在の事件だった」が『那个事件是实有其事的』。

一方中国語の『实在』は、日本語の意味と全く異なっており、一般的に使われるのが①副詞としての「実に、本当に」であり、その他②「実は、実際は」、③「まともである、着実である、丈夫である」の場合に使われます。

- ① 「実に、本当に」の場合の用例；

『这个电影实在有意思了』が「この映画は実に面白い」。

『对你的帮助、实在感谢』が「ご援助本当にありがとうございます」。

- ② 「実は、本当は」の用例；

『他说他自己会开车、实在不会』が「彼は車の運転が出来ると言っているが、実は出来ないのだ」。

『他说都明白了、实在并没明白』が「彼は全て分かったというが、本当は全く分かっていない」。

- ③ 「まともである、着実である、丈夫である」の用例；

『那个人不实在』が「あの人はまともでない→あの人は誠意がない」。

『活计做得很实在』が「仕事が着実で、手を抜いていない」。

『这张桌子做得很实在』が「このテーブルはとても頑丈に出来ている」。

同じ「实在」という言葉ですが、日本語は「実際の存在」として使われ、中国語が「実際の在り方」を表現しているところが面白い点です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第182回)

「到頭」

日本語の「到頭」には「ついに、最後に、結局」という意味の副詞として使われます。この中国語は『到底、终于』などで、用例は下記の通りです。

- * 「ずいぶん遅くまで待ったが、彼は到頭来なかった」が『一直等到很晚、他到底没来了』。
- * 「到頭雨になった」が『到底下起雨来了』。
- * 「何回も失敗したが、到頭成功した」が『失败了好几次、终于成功了』。
- * 「忙しくて暇がなく、その映画を到頭見に行けなかった」が『忙得没有闲工夫、终于不能去看那部电影了』

中国語の『到头』は同じ最後の意味でも「ぎりぎりの所まで行く、極限に達する」との意味であり、①動詞の使い方として「これが終わり、精一杯、最上」などを表現し、②副詞として「極限まで、終わりまで」の使い方があります。

① 動詞として「これが終わり、精一杯、最上」の用例；

『我的力量已经到头了』が「私はこれ以上もう力を出せない、精一杯だ」。

『我的话已经到头了、他不听也没办法』が「私は言うべきことを言い尽くした、それでも彼が聞き入れないのならもう何もしようがない」。

『这是我得到的到了头儿的大造化』が「これが私が得た最上の果報だ」。

② 副詞として「極限まで、終わりまで」の用例；

『熬到头就好了』が「苦労や困難をしのげば楽になる」。

『这条路一直到头就是学校』が「この道を真っ直ぐ行って、突き当たった所が学校です」。

『我好心劝了半天、到头来反到惹得他不高兴』が「私が好意で忠告したにもかかわらず、しまいには彼を不機嫌にしまった」。

『不老实的人、到头来总是要栽跟头』が「不誠実な人は、最後にはどうしてもつまづくことになる」。

なお中国語の副詞の例にある『熬』は、一声では「煮る、煮詰める」ですが、二声では苦痛や困難を「耐え忍ぶ、辛抱する」との意味になります。『熬到头』が苦労や困難を「とことん凌ぐ」、『熬得住』が「凌ぐ、我慢する」、『熬得过』が「持ち堪える、耐え忍ぶ」の意味です。また『到头来』は「しまいには、結局のところ」の意味ですが、その後に続く文章が前文の道理の逆の悪い結果となる場合に多く使われています。

中国語は漢字のみを並べた文章ですが、その漢字の使い方非常に微妙な意味まで表現出来ていることをこの例から認識できて非常に面白いと思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第183回)

「調和」

日本語の「調和」は2つ以上の物事がうまく釣り合って全体が整っていることを意味しています。中国語で『协调、配合、和谐』と表現し、用例は下記の通りです。

- * 「彼の存在はその場の雰囲気と調和しなかった」が『他的存在和那种场面的气氛不协调』。
- * 「この家具は部屋と調和している」が『这个家具与房间很协调』。
- * 「この絵は色彩の調和が取れていない」が『这个画儿颜色的配合不好』。
- * 「この2つの音は調和していない」が『这两个音调不和谐』。

一方中国語の『调和』には、日本語と同じである①「釣り合いが取れている」との意味と併せ、②「調停する、とりなす」と、③否定文に使われて「妥協する」という意味があります。

① 「釣り合いが取れている」の用例；

『窗帘和家具的颜色很调和』が「カーテンと家具の色がよく調和している」。

『今年雨水调和、收成很好』が「今年は天候が順調で、作柄もたいへんよい」。

この『雨水调和』とは、天候が順調で晴れた日と田畑が必要とする雨の日が調和していることを示しています。

② 「調停する、とりなす」の用例；

『每当他们闹矛盾的时候、老师总是从中调和』が「彼らの間で何か衝突が起きた場合に、先生は必ず間に入って調停する」。

『在妈妈的调和下、哥儿俩又和好如初了』が「兄弟は母親のとりなしで仲直りをした」。

③ 否定文に使われる「妥協する」の用例；

『在这个问题上没有调和的余地』が「この問題では妥協の余地がない」。

『关于路线的方针上、我们不能跟他们调和』が「路線の方針について、我々は彼らと妥協することは出来ない」。

『调』には“tiao2声”と“diao4声”の2つの発音があり、“tiao2声”が「適度である、調合する、調整する」との意味があって『调和』もこの分類に入ります。

“diao4声”は「移動する、派遣する、音階の調子、アクセント」の意味です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第184回)

「依頼」

日本語の「依頼」は、①用件などを人に頼むこと並びに②人を頼りにする場合に使われます。用例としては下記の通りです。

- ①「用件などを人に頼むこと」、中国語で『请、请求、托、托付、委托』の用例；
「この件を貴方に依頼します」が『这件事情、我请你来办吧』。
「先方からの依頼で期限を延ばした」が『由于对方的请求展宽了期限』。
「友達に依頼して手紙を届けた」が『托朋友把信送去了』。
「紹介状を書くように依頼された」が『受托为他写一部介绍书』。
「万事依頼してあるので、貴方が行って相手と話して下さい」が『一切都为你托付好、你自己去和对方谈一谈吧』。
「本件は弁護士に依頼するのが一番よい」が『这件事最好还是委托律师办理』。
- ②「人を頼りにする場合」、中国語で『依赖、靠、依靠』の用例；
「君は依頼心が強すぎる」が『你依赖心太强』。
「人に依頼しないで自分でやりなさい」が『你不靠别人、自己做吧』。
「貴方は他人に依頼しすぎだ」が『你过分依靠别人』。

中国語の『依赖』は日本語と同じ、①「人を頼りにすること」の意味と、②「依存する」との意味があります。

- ①「人を頼りにすること」の用例；
『自己应做的事情、不能依赖别人』が「自分でなすべきことは、人に頼ってはならない」。
『你老帮助他、就会养成他的依赖心』が「いつも彼を助けてばかりいては、彼の依頼心を助成することになる」。
- ②「依存する」の用例；
『这种原料主要依赖进口』が「この原料は主に輸入に依存している」。
『工业和农业是互相依赖的』が「工業と農業はお互いに依存している」。

日中両語で「人を頼りにすること」では同じに意味ですが、日本語には「用件を人に頼む」との意味があり、中国語には「依存する」との意味があって、微妙に違う使い方がされています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第185回)

「結構」

日本語の「結構」は非常に幅広く使われており、①「よい、優れている」、②「必要としない」、③「それでよい、十分」、④「ある程度、かなり」などの場合です。

そのそれぞれの用例は下記の通りとなっています。

- ① 「よい、優れている」、中国語で『好、漂亮、その他』の用例；
「結構なお品を頂きありがとうございました」が『非常感谢、您送我这么好的礼物』。
「この品は結構な出来ばえだ」が『这个东西做得挺好』。
「ここはたいへん結構なお庭ですね！」が『这里是很漂亮的园子！』
「まことに結構なご身分だね」が『你真是令人羡慕的身份』。
- ② 「必要としない」、中国語で『不用、不必、够了』の用例；
「明日から来なくて結構です」が『从明天起你不用来了』。
「そんなご心配を頂かなくて結構です。一人で帰れます」が『你不必这么担心、我一个人能够回去』。
「もう一杯如何ですか？ もう結構です、ありがとうございました」が『再来一杯怎么样？ 不、这就够了、谢谢你』。
- ③ 「それでよい、十分」、中国語で『可以、行、够』の用例；
「現金でもクレジットでも結構です」が『现款和信用卡都可以』。
「鉛筆で結構です、ちょっと貸して下さい」が『铅笔也行、请借我用一下』。
「これだけあれば結構です」が『有了这些就够了』。
- ④ 副詞として「ある程度、かなり」、中国語で『相当、满好地、还』の用例；
「締めてみたら、結構儲けがあった」が『结了帐、原来赚的相当多了』。
「写真は結構はつきり撮れている」が『照片拍得相当清晰』。
「これで結構暮らしていける」が『这样就能满好地生活下去』。
「これはまだ結構役に立つ」が『这个还可以用』。
「この酒は結構いける」が『这个酒味道还行』。

日本語の「結構」はこのようにいろいろな使い方をされていますが、中国語の『结构』は「構成、構造」の場合のみで、用例は下記の通りです。

- * 『那篇论文的结构很周密』が「あの論文の構成はたいへん綿密である」。
- * 『文笔很好、但是层次的结构不好』が「文章はうまいが、筋の構成がまずい」。
- * 『他正在研究化学物质的分子结构』が「彼は目下化学物質の分子構造の研究をしている」。

* 『那座大桥是钢筋混凝土结构的』が「あの大橋は鉄筋コンクリート構造である」。

中国語の『结构』が日本語として使われた際に、その漢字本来の「構成や構造」の意味が失われて、何故このように中国語とは異なる分野で広い意味として使われたかが面白い点です。また日本語の「結構です」と言った場合に、実際に不要、或はもう十分に満足したので「結構」と言っているのか、或いは遠慮して「結構」と言っているのか極めて不明な表現である点も日本語の特色といえます。

中国語で誤解しないように (第186回)

「逼迫」

日本語の「逼迫」は“事態が差し迫っていること”並びに「経済的に行き“って余裕がないこと”に使われます。用例は下記の通りです。

① 事態が差し迫っていることの場合；

「日本とアメリカの貿易摩擦問題が日々に逼迫してきた」が『日美貿易摩擦問題 日益紧张起来了』、

「製品の納期が逼迫していたので、何とか休日出勤をして間に合わせた」が『产品的缴纳期限迫于眉睫，不得不进行假日加班才赶上了』、

② 経済的に行き詰って余裕がないことの場合；

「大きな災害に遭ったので食料が逼迫している」が「由于受到特大灾害，粮食供应为紧张』、

「財政が逼迫している」が『财政紧张』或いは『财政困窘』、

「資金が逼迫している」が『缺乏资金』或いは『资金困境』です。

中国語の『逼迫』は「強制する、無理強いする、強要する」との意味で、用例は下記のとおりです。

* 『这是他逼迫我同意的』が「これは私が彼に無理やり同意させられたのだ」、

* 『逼迫人们承认自己的观点是行不通的』が「無理に自分の観点を認めさせるようなことをやってはならない」、

* 『在父母的逼迫下，她只好跟他吹了』が「両親に強要されて、彼女は仕方なく彼と別れた」です。

中国語の『逼迫』は圧力を加えて何らかのことをやらせることです。これに似た言葉で『压迫』がありますが、『压迫』は権勢で他人を強制して自分に服従させることで、『阶级压迫，民族压迫』のように『压迫』は連語を作ることができますが、『逼迫』にはこのよおな働きはありません。

一方日本語の「逼迫」は追い詰められてゆとりがなくなることであり、受け身のニュアンスが強く、文章では見かけますが日常的な会話ではあまり使いません。精々仲間同士の会話で「俺、今ふところが逼迫しているんだ」くらいです。

中国語で誤解しないように (第187回)

「品質」

日本語で「品質」とは“品物の質”のことで、「この品質はすばらしい」と対象とす

る品物の質を表現します。この中国語は『质量』が一般的ですが、一部の場合に日本語と同じく『品质』を使うケースがあります。それを含めた用例は下記のとおりです。

- * 「これは最上品質の緑茶です」が『这是质量最好的绿茶』、
- * 「品質のよさでお客様の信頼を得る」が『因质量好而受到顾客的信赖』、
- * 「品質を向上させる」が『提高质量』、「品質を落とす」が『降低质量』、
- * 「日本の緑茶で品質が最もよいのが玉露です」が『日本的绿茶品质最好的是玉露』、
- * 「中国の七宝焼は品質がよい」が『中国的景泰蓝是品质很优良的』、
- * その他、「品質管理」が『质量管理』、「品質保証」が『质量保证』です。

中国語の『品质』は上例のとおりごく一部に“品物の質”として使いますが、主として使われるのは“人間の品性、人柄、資質”についてです。

- * 『那个人虽然有才能, 但品质不好』が「あの人は才能はあるけれど、人間的にはちょっとですね」、
- * 『评价一个人, 首先要看道德品质如何』が「ある人間を評価するには、まずその人の道徳的な品格を見なければならない」、
- * 『看厕所, 就看到那个学校学生的品质』が「トイレを見れば、その学校の生徒の品性が分かる」
- * 『好学不倦是他的宝贵品质之一』が「飽きることなく勉強するのは、彼の優れた資質の一つである」

中国語の『品质』は主として“人の性格”について使い、日本語と同じ“品物の質”について使うのは非常にまれなケースです。品物の品質、特に工業製品の品質については、『质量』を使うのが一般的であり、敢えて品物の『品质』として使う場合は、対象が工業製品が主で、その品質が非常に優れている場合です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第188回)

「面目」

第20項で「真面目」を述べましたが、今回は「面目」を取り上げます。「面目」には中国語の『真面目』と同じ意味を持つ「しんめんもく」と読む「真面目」から「真」を除いた「めんもく」と読む“様子、ありさま”という意味があります。またこれと併せて“世間に対する名誉、面子、体面”の意味があります。「面目」は2つの読み方を持っており、前者の例は「町の面目を一新した」で“めんもく”と発音し、後者の例は「真に面目がない」で“めんぼく”と発音します。この用例は下記のとおりです。

- ① 「様子、ありさま」の用例で、中国語でも同じ『面目』が使われます；

「町の面目が一新した」が『城里的面目一新了』、

「著者の面目がこの本の中に躍動している」が『著者的面目活跃在这部书里』、

「鉄道が通じて市の面目が一変した」が『铁路开通，市的面目为之一变了』です。

- ③ 「名誉、面子、体面」の用例で、中国語は『名誉，面子，脸』が使われます；
「私の面目にかけてもこうしなければいけないと思っている」が『我想为了名誉也必须这样做』、

「私は面目にかけて必ずこれを成功させる」が『为了我的名誉，我一定把它成功』、

「今回の失敗で私の面目は丸潰れとなった」が『由于这次失败，我丢尽了面子』、

「こうになっては皆に会う面目がないよ」が「事到这样，我没有面子见大家」、

「あんな事をして実に面目ない」が『干那样事，实在没脸见人』、

「何の面目あって家に帰れようか」が『有什么脸能回家呢』です。

中国語の『真面目』は『面目』の前に『真』を付けて、その意味を強化したものです。『面目』には『真面目』の『真』を除いた「様子、ありさま」の意味と併せ、「顔、顔つき」と「持つ姿、正体、持ち前」の意味があります。前出の日本語と同じ『面目』が使われる「様子、ありさま」を除く2つの用例を下記のとおりです。

- ① 「顔、顔つき」の用例；

『有怎样面目见他呢』が「どのような顔で彼に会えようか」、

『面目可憎』が「顔つきが憎たらしい」、『面目狰狞』が「面構えが獐犷で凶悪である」です。

- ② 「持つ姿、正体、持ち前」の用例；

『一篇大好文章，被胡乱删改得面目全非了』が「すばらしい文章も乱暴な添削ですっかり見る影もなくなってしまった」、

『看不出他的本来面目』が「彼の正体がかめめない」、

『守自己的面目』が「自分の持ち前を守る」です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第189回)

「意思」

日本語の「意思」とは「意思の疎通を欠く」とか「私は賛成の意思を表明した」とのように“思い”や“考え”の意味を持っています。その用例は下記のとおりで、いろいろな中国語での表現があります。

* 「意思の疎通を欠く」が『缺乏互相的了解』、

* 「上司と部下はもっと意思の疎通を図るべきである」が『领导和部下应该进一步沟通思想』、

* 「私は賛成の意思を表明した」が『我表示了赞成的意见』、

* 「私はまだ家を買換える意思はない」が『我还不打算换房子』、

* 「彼は自分の意思を明らかにした」が『他表明了自己的想法』、

* 「するかしないかは各人の自由意思に任せまる」が『做不做均悉听各人尊便』、
* 「この結論は彼の意味に任せる」が『这个结论任凭他的志愿』などです。
中国語の『意思』は、日本語の「言葉や文などの意味」、「考え、つもり、意図」、「面白み」、「気配、兆し」、「贈り物をするときの寸志、気持ち」、「思いやりを含んだ気持ち、情誼」などいろいろなことを表現しています。用例は下記のとおりです。

① 「言葉や文などの意味」の用例；

『这句话的意思是什么？』が「この言葉の意味は何ですか」、

『节能就是不浪费能源的意思』が「省エネとはエネルギーを浪費しないという
意味である」、

② 「考え、つもり、意図」の用例で日本語と共通な面があります；

『我试探一下，他是不是有那个意思』が「彼にその考え（意思）があるのかどうか
を打診してみる」。

『我的意思是走着去』が「私は歩いて行くつもりだ」、

『你是不是对她有意思？』が「君は彼女に気があるのだろうか」です。

③ 「面白み」の用例；

『这部电影没什么意思』が「この映画は少しも面白くない」、

『这棵树长得很有意思』が「この木の格好はなかなか面白い」です。

④ 「気配、兆し」の用例；

『天阴上来了，像是要下雨的意思』が「空が曇ってきて、どうやら雨が降りそうな
気配だ」、

『天渐渐冷了，这是快要入冬的意思了』が「だんだん寒くなってきた、これは
もうすぐ冬になる兆しだ」、

『天有点儿下雨的意思』が「空は少々雨模様だ」です。

⑤ 「贈り物をするときの寸志、気持ち」の用例；

『这是我的小意思，请你收下吧』が「これは私の寸志です、どうぞお納め下さい」、

『这不是什么太好的东西，只不过是表示一点儿我的意思』が「これはつまないもの
で、私のほんの気持ちに過ぎません」

『不必送那么重的礼，意思就到行了』が「そんな立派な贈り物をするには及ばない、
気持ちが届けばそれでよい」です。

⑥ 「思いやりを含んだ気持ち、情誼」の用例；

『我不好意思和他提出这个话』が「私は気の毒で彼にこの話が出来ない」

『我怎么好意思丢开他呢』が「彼を放ったらかしにすることが、どうして私にで
きようか」です。

『这种做法太不够意思了』が「このやり方は情誼に欠ける」、

『我困难的时候，他帮了我不少，真够意思』が「私が困った時に彼はいろいろ
助けてくれた、本当に友達甲斐がある」、

『这人不够意思』が「こいつは友達甲斐のない奴だ」です。

さて「意思」に似た言葉として「意志」があります。「意志」とは“物事を成し遂げようとする積極的な志”で、中国語も同じく『意志』或いは『主見』です。参考までに用例を下記します。

- * 「彼は意志が強い人だ」が『他是一个意志坚强的人』、
- * 「意志薄弱な人」が『意思薄弱的人』、
- * 「あの男には自分の意志というものがない」が『那个人没有主见』、
- * 「彼は平生は無口だけど、物事に対しては明確な意志を持っている」が『虽然他平时说话不多，但对事情却有明确的意志』です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第190回)

「心地」

日本語の「心地」には“心地よい風が吹いている”と通常に使われると共に、“住まいの居心地”や“車の乗り心地”などの複合語で心の状態を示す使い方がされています。いずれも「心の状態や気分」を示した表現で、日本語の用例は下記のとおりです。

① 「心の状態や気分」の用例；

- 「心地好い朝の空気」が『清爽的朝晨的空气』、
- 「心地好い眠りを誘う雰囲気」が『令人欲醉的气氛』、
- 「激しい雷に遭って生きた心地がしなかった」が『那震耳的雷声，使我胆战心惊』、
- 「シャワーを浴びて爽やかな心地になった」が『冲完澡后神清气爽』す。
- 「心地よく眠る」が『睡得很香甜』、
- 「心地好い秋晴れ」が『秋高气爽』です。

③ 「心地」の複合語の用例；

- 「乗り心地のよい車を買った」が『买了一辆非常舒服的车』、
- 「この住まいは居心地がよい」が『这个住处很舒适』、
- 「この部屋はどうも居心地が悪い」が『这个房子总觉得住不舒坦』、
- 「新しいポストの座り心地はどうですか」が『担任新职位的心情怎样？』です。

中国語の『心地』には、「心根、気立て」と「気持ち、気分」の2つの意味を持っており、その用例は下記のとおりです。

① 「心根、気立て」の用例；

- 『我的保证人是一位心地坦白的人』が「私の保証人は心根のまっすぐな人だ」、
- 『那位是心地善良的青年』が「あの方は気立てのよい青年だ」、
- 『心地厚道』が「気立てがやさしい」、 『心地善良』が「心根が善良である」、
- 『心地光明』が「心根が純潔だある」、 『心地坦白』が「心根が正直である」、
- 『心地齷齪』が「心根がきたない、品性が下劣である」などです。

② 「気持ち、気分」の用例；

『心地轻松』が「気持ちが軽やかである、気持ちが安らかである」、

『心地淳朴的年轻人』が「心の純朴な若者」

「心地」は日本語も中国語も“心”の感じる場所を表現しているのですが、その意味に少し差があります。このニュアンスの差が同字異義語として面白い点です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第191回)

「爽快」

日本語の「爽快」は“爽やかで気持ちがよい”との意味であり、一般的には天気がよい、気候がよいので“気分が爽やかである”との場合の表現が主になっています。中国語では『清爽』が使われ、その用例は下記のとおりです。

* 「朝の爽快な空気」が『早上清爽的空气』、

* 「夕風が吹いてきて、たいへん爽快である」が『晚风吹来，十分清爽』、

* 「天高く馬肥る秋は、気分が爽快である」が『秋高马肥，精神清爽』、

* 「暑い日のひと泳ぎの気分は爽快だ」が『在天热的时候游一场泳，使精神清爽』です。

中国語の『爽快』は性格や心情が対象となっており、①気分がよい、気持ちがよい、②性格が気取りがない、率直である、③行動がきびきびしている、敏速であるとの3つの場合に使われます。用例は下記のとおりです。

① 「気分がよい、気持ちがよい」の用例；

『把肚子里的话都说出来后，心里爽快多了』が「腹の中に溜まっていたことを全て吐きだしたら、胸がすっとした」、

『谈了这许多话，心里倒爽快了些』が「いろいろと話が出来たので、気分がちょっと楽になった」、

『洗完澡身上爽快多了』が「入浴したら身体がたいへんさっぱりした」です。

この「気分がよい、気持ちがよい」の場合は、日本語でも「運動をして汗をかいたので、シャワーを浴びたら気分が爽快になった」との表現があり、日本語の用例の「暑い日の一泳ぎ」もこの例に入りますので、同じ使い方をしていると言えます。

② 「性格が気取りがなく、率直である」の用例；

『那个人很爽快』が「あの人は爽やかで気さくな人である」

『为人爽快』が「人となり率が率直で爽やかである」

『他是个爽快人』が「彼は気取りのない、率直な人だ」です。

③ 「動作がきびきびしている、敏速である」の用例；

『他是个爽快人，说一句算一句』が「彼は表裏がない人で、言ったことは必ず実行する」、

『他说话办事都十分爽快』が「彼は話し振りがたいへんはきはきしており、仕事ぶりも非常にきびきびした人である」、

『他爽快地答应下来了』が「彼は二つ返事で承知した」です。

日本語の「爽快」と中国語の『爽快』は“気分がよい”との点では一部同字同義語ですが、中国語は“性格や動作”にまで使えますので、この点が同字異義語となります。

.

.

中国語で誤解しないように (第192回)

「道理」

日本語の「道理」は“物事のそうあるべき筋道、理由”と“人の行うべき正しい道、道義、情理”の2つの意味があります。一方中国語の『道理』は日本語のこの2つの意味と併せて、“方法、法則、考え”との意味を持っています。ただ同じ意味を持つと言っても中国語には中国語の『道理』を使わない表現もあり、先ず日本語の用例を下記します。

① 「物事のそうあるべき筋道、理由」の用例；

「道理が分かる」が『懂道理』、

「道理に背く」が『违背道理』、

「道理に合わない」が『不合道理』、

「息子の言うことにも少しは道理がある」が『儿子说的也有几分道理』、

「そんな安易な計画が成功する道理がない」が『按理说这种缺乏考虑的计划不会成功的』、

「彼は最近失恋したらしい。道理で落ち込んでいた訳だ」が『他最近好象失恋了，怪不得无精打采的』などです。

② 「人の行うべき正しい道、道義、情理」の用例；

「無理が通れば道理が引っ込む」が『若无理行得通，则真理就行不通』、または『邪恶当直，正气无存』、

「裏取引は道理に反する行為だ」が『背后交易是违反道义的行为』

「道理を尽くして説明する」が『尽情尽理地说明』です。

中国語の『道理』は、日本語と同じ「そうあるべき筋道、理由」や「道義、情理」と併せて「方法、法則、考え」の意味があり、用例は下記のとおりです。

① 「物事のそうあるべき筋道、理由」の意味の用例；

『摆事实，讲道理』が「事実を並べて道理を説く」、

『你要是把道理给他讲清楚了，他会很高兴地去做的』が「君が理由をはっきりと話せば、彼は喜んでそれをやりますよ」、

『你说的话很有道理』が「君の話はとても筋が通っている」

『有道理！』が「なるほど！」といって相づちを打つ言葉です。

② 「人の行うべき正しい道、道義、情理」の意味の用例；

『做任何事情都要讲道理』が「何事をするにも道義に適わねばならない」、

『跟不讲道理的人，没有什么可谈的』が「情理の分からぬ人間とは、何も話すこととはない」です。

③ 「方法、法則、考え」の意味の用例；

『他给新工人讲操作的道理』が「彼は新米労働者に操作のやり方を説明した」、

『老王给大家讲了这种化学反应用的道理』が「王さんは皆にこの化学反応の法則を説明した」

『关于怎么办，我自有道理，把情况了解清楚了再做吧』が「どうするかに就いて、私には私のえがあるので、状況をはっきり把握してからまたやりましょう」、

・

・

・

中国語で誤解しないように (第193回)

「対応」

日本語の「対応」には、“相対する関係にあること”、“両者の関係が釣り合っていること”並びに“相手の状況に応じて対応すること”の3つの意味があります。それぞれの用例は下記のとおりです。

- ① 「相対する関係にあること」の用例；
「対応する2つの辺」が『相对的两个边』、
「この日本語にぴったり対応する中国語はない」が『没有完全对应那句日语的汉语』、
「重さが左右対応している」が『重量是左右相对的』です。
- ② 「両者の関係が釣り合っていること」の用例；
「庭園の木と池がよく対応している」が『庭园中的树木和池塘配置得很和谐』、
「収入に対応した生活」が『跟收入水平相对应的生活』、
「実情に対応した給与を支払う」が『按工作成绩付酬』です。
- ③ 「相手の状況に応じて対応する」の用例；
「交通事情に対応して一方通行を実施する」が『为适应交通情况实行单向通行』、
「緊急事態には速やかに対応しなければならない」が『出现紧急情况时必须采取及时的措施』
「この局面にどう対応したらよいだろうか」が『怎样对付这个局面才好呢？』
「相手の出方に対応する」が『考虑相应的对策』です。

中国語の『对应』は「相対する関係にあること」で用例は下記のとおりです。

- * 『这是一组互相对应的关系』が「これはお互いに対応した関係にある」
- * 『前景和背景互相对应, 很有趣』が「前景と後景がお互いに対応して面白い」、
- * 『上下, 左右, 前后等等是彼此对应的概念』が「上下、左右、前後などは、みな相互に対応する概念である」です。

中国語の『对应』は「相対する関係にある」との意味のみで、日本語の「両者の関係が調和している、釣り合っている」並びに「相手の状況に応じて対応する」との意味はありません。特に「相手の状況に応じて対応する」場合の「対応する」には、日本人の感覚として『对应』をそのまま使いたくなりますが、これは『采取措施』とか『采取对策』とする必要があります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第194回)

「百姓」

現在日本語の「百姓」は“農業に従事する人”の意味で“農民”の意味として使われていますが、元来「百姓」は「ひやくせい」と読まれおり、一般人民や公民を指して使いました。では“農民”の語源はというと、広辞苑によれば昔の貴族や寺社の私有地である“荘園”で働く農民を“荘園農民”と称していた由で、これが語源でしょう。

中国語の『百姓』は日本語で「ひやくせい」と読んだ場合と同じで意味であり、その用例は下記のとおりです。

- * 『我们都是平民百姓』が「我々はみな一般庶民である」、
- * 『他为官清廉，很受百姓拥戴』が「彼は清廉な役人であるので、一般庶民に歓迎されている」、
- * 『老百姓』が「一般人民、一般庶民」です、

なお日本語の「百姓」を中国語では『农民』或いは『庄稼人』といいます。「百姓をする」が『从事农业』や『干农活儿』、「水飲み百姓」が『贫農』、「百姓になる」が『当农民』です。

中国の古代では貴族、官吏、武人のみが“姓”を持っていたため、それ以外の一般庶民全てを『百姓』と総称していました。日本でも「ひやくせい」と読んで中国と同じ使い方をしていましたが、何故「百姓」を「ひやくしょう」と読ませて“農民”を意味することになったのか、そしてそれが何時ごろからなのかは分かりません。

江戸時代までは貴族の除く一般人民を“士農工商”と称して、名字を持っていたのは“士”のみでした。この点は中国と全く同じです。そして農民の中でリーダー格の特別な名主にのみ“名字帯刀”を許され、それをたいへん名誉なこととされていました。これは著者の勝手な想像ですが、明治時代に入って全国民が法律によって全て“姓”を持たねばならぬことになった時、工業と商業に従事していた者は“屋号”があつてそれを“姓”としましたが、農民のみは自分勝手に“姓”をつけざるを得ず、たくさんの“姓”が発生したので「百姓」を「ひやくしょう」と読んで“農民”の代名詞になったのかも知れません。

因みに“重箱読み”或いは“湯桶読み”とは同列には扱えませんが“百姓読み”という言葉があります。これは農民を「漢字を正しく読めない者」と見なしていった言葉のようで、現在では“差別語”に当たるかも知れません。意味は漢字を旁(つくり)または偏(へん)によって我流に読むことを言います。「百姓」の正しい読み方は「ひやくせい」ですが、それを「姓」の字の旁(つくり)の“生”を使って「ひやくしょう」と読んだことに由来しています。“百姓読み”には、この他“絢爛(けんらん)”を「じ

ゆんらん、「懶惰(らんだ)」を「らいだ」と読む例があります。或いはこんなことが「百姓」の語源かも知れません。余計なことですが申し添えました。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第195回)

「文句」

日本語の「文句」には“君の態度に文句がある”とか“論語の文句を引用する”などの使い方があり、前者は“相手に対する苦情や言い分”を表わし、後者は“文章の中の語句や文言”を表わしています。日本語の用例は下記のとおりです。

① 「相手に対する苦情や言い分」の用例；

「文句を言う」が『发牢骚』或いは『提意见』

「文句をつける」には『责难, 挑剔, 找毛病』などの言い方があります。

「君の態度ふるまいに文句がある」が『对你的态度举止有意见』、

「何かと文句を言う」が『总是要挑剔』或いは『挑毛拣刺』、

「文句なしの傑作」が『完美无可挑剔的杰作』

「彼は私のすることに一々文句をつける」が『他对我做的每一件都很挑剔』、

「いまさら文句を並べても始まらない」が『现在再提意见也已经没用了』です。

② 「語句、文言」の中国語は一般的に『词句』が使われ、用例は；

「“論語”の文句を引用する」が『引用“论语”上的词句』、

「ぴったりした文句が使ってある」が『用了贴切的词句』、

「性能のよさを謳い文句にしている」が『以性能优良为宣传标语』、

「宣伝文句を額面通り受け入れる」が『把广告用词当真』です。

中国語の『文句』は「語句、文言」の意味のみで、用例は下記のとおりです。

『文句通顺』が「文章が筋道だって分かり易い」、

『他的信只写了空洞的文句』が「彼の手紙は中身の無い言葉だけ綴ってあった」

『这篇文章的内容还不错, 就是文句不通顺』が「この文章は内容はそう悪くないが、どうも言い回しがすっきりしない」です。

「文句」をその字の通り理解すれば中国語の使い方が正しく、何故日本語では「文句を言う」や「文句をつける」との表現ができて来たのかが面白い点です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第196回)

「焼餅」

日本語の「焼餅」を日中同字異義語の例として出すにはどうかとの気持ちもありましたが、日本語には“嫉妬する”ことを「焼餅を焼く」との比喩語的な使い方があり、中国語でも同様なので、例として挙げることにしました。

日本語で「焼餅」といえば、お正月に食べる糯米を撞いて作ったお餅を焼いたもので、このお正月に食べるお餅のことを中国語で『年糕』といいます。中国語の『烧饼』は日本でも通称「シャオピン」と言ってよく知られているもので、小麦粉を発酵させて薄く伸ばし、丸形に整えて焼いたもので、有名なのが胡麻をまぶした『芝麻烧饼』です。

日本語で“自分より優れた者をねたみ、そねむこと”並びに“男女間で自分が愛する対象の愛情が他の者に向かった場合にそれを恨み、憎むこと及びその感情”を「嫉妬」或いは「怏気」といいます。それを比喩的に表現したのが「焼餅」です。「焼餅」の特異な点は「嫉妬をする」或いは「怏気を起こす」との表現に対し、「焼餅」の場合のみは「焼餅をする、焼餅を起こす」ではなく「焼餅を焼く」と“焼いた餅を更に焼く”との日本語としては珍しいダブルの言い回しをし、それが当たり前として通用しているところです。なお「嫉妬」及び「怏気」を中国語で『嫉妒』或いは『忌妒』といいます。日本語の「焼餅」の用例は下記のとおりです。

- * 「母を取られた気がして、兄はまだお襁褓の取れていない赤ん坊の弟に焼餅を焼いた」が『哥哥觉得母亲被抢走了，嫉妒起还在襁褓中的弟弟来』、
- * 「つまらぬことにも直ぐ焼餅を焼く」が『一点小事也马上忌妒起来』、
- * 「妻の男友だちに焼餅を焼く」が『忌妒妻子的男性朋友』です。

これは皆様もよくご存知と思いますが、日本語で「嫉妬する、怏気する」を「焼餅を焼く」というように、中国でも『嫉妒，忌妒』の比喩語として“お酢を食べる”、即ち『吃醋』という表現があります。その用例は下記のとおりです。

- * 「私の夫はやたらに焼餅を焼く」が『我的丈夫非常爱吃醋』、
- * 「私の妻は嫉妬心が強い」が『我的妻子醋劲儿强』、
- * 「夫はひどい焼餅焼きだ」が『我丈夫是个醋罐子』です。
- * 「焼餅焼き」という複合語は、『嫉妒心强的人』或いは『爱吃醋的人』ですが、最後の用例のように『醋罐子』或いは『醋坛子』ともいいます。

日本でも中国でも男女間の問題は面白ろがられるようで、「焼餅を焼く」や『吃醋』という表現は面白い例です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第197回)

「自覚」

日本語の「自覚」には“欠点を自覚する”と「自分で承知する」こと、“国民の自覚

を促す”と「覚悟をさせる」こと、並びに“自覚症状がある”と「自分で感じる」ことの意味があり、それぞれの用例は下記のとおりです。

- ① 「自分で承知すること」の用例で、中国語は『认识, 意识, 自知』などが使われます。

「自分の欠点を自覚する」が『认识到自己的缺点』、

「あの人は自分の短所を自覚していない」が『那个人没有认识到自己的短处』、

「一人一人が自分の責任を自覚すべきだ」が『每个人都应该意识到自己的责任』、

「私は自己努力が足りない」と自覚している」が『我自知自己的努力不够』です。

- ② 「覚悟させる、覚醒させる」の用例；

「総理は当面の難局に対する認識について国民の自覚を促した」が『总理提醒人民必须认识到当前的困难局面』、

「あの議員は政治的自覚が欠如している」が『那个议员缺乏政治觉悟』、

「学生としての自覚が足りない」が『缺乏作为学生的觉悟』です。

- ③ 自覚症状など「自分で感じること」の用例で、この場合は中国語も同じ『自觉』を使って表現します。

「私は自分の体力が衰えたことを自覚している」が『我自觉我的体力不如以前』、

「この病気は初期段階では何の自覚症状も出てこない」が『这个病在初期阶段没有什么自觉症状』、

「病気によっては病状がある程度進まない」と病人は病気になったことを自覚しない」が『有些病不显著时, 病人并不自觉得了病』、

「彼女が何を怒っているのか分からないが、私は何も彼女に悪いことをした自覚がない」が『我不知道她为什么生气, 我自觉没什么得罪她的地方』です。

中国語の『自觉』は「自分で感じること」については日本語の「自覚」と同じですが、それと併せて「自覚して自分から進んでやる、自ら積極的やる」との日本語の「自覚」にはない意味を持っています。この用例は下記のとおりです。

* 『这是他自觉自愿的』が「これは彼の自発的行動です」、

* 『你不要强求她, 应该自觉自愿的』が「彼女が自ら進んでやればよいのだから、無理に強要してはならない」、

* 『自觉地遵守各项规章制度』が「積極的に各種の規則制度を遵守する」、

* 『学习要自觉』が「勉強は自ら進んでやらねばならない」です。

・

・

中国語で誤解しないように (第198回)

「見方」

日本語の「見方」には“見る方法”と“ある立場に立って物事を見てどう考えるか”との意味があります。その用例は下記のとおりです。

- ① 「見る方法」の用例で、中国語は『看，看法，使用的方法』です。
「今日は為替相場の見方を勉強しよう」が『今天要学习怎样看汇兑行市』、
「見方が悪いとよく見えない」が『看法不对就看不清楚』、
「この地図の正しい見方を教えて下さい」が『请教我正确使用这个地图的方法』、
「この天体望遠鏡の見方が分からない」が『不知道怎样使用这个天文望远镜』です。

- ② 「ある立場に立って物事をどう見て考えるか」の用例で、中国語は『看，看法，见解，想法』が使われます。
「見方によっては、貴女の言い分は正しいと言える」が『换个角度来看，你的主张也可以说是正确的』、
「私の見方は違います」が『我不那么看』或いは『我的看法不同』、
「新工場の建設問題について私の見方はこうだ」が『关于新厂的建设问题，我的看法是这样的』、
「貴女の見方は偏っています」が『你的见解有点儿偏见』、
「人によって物の見方が違う」が『每个人的见解都不同』、
「見方によっては、そうも解釈できる」が『根据不同的想法，也可以那样解释』、
「そのような見方に私は同調できない」が『我不能附和那种想法』です。

中国語の『見方』は“正方形”を意味する「～～四方、～～平方」で、口語体のみに使われ、その用例は下記のとおりです。

- * 『这个房子有一丈见方』が「この部屋は一丈四方の広さだ」、
- * 『这个运动场有一百公尺见方』が「この運動場は100平方米ある」、
- * 『他买了一块地，有三十米见方』が「彼は30平方米の土地を買った」です。

同じ“見方”ですが、日本語と中国語はこのように違っており、日本語の「見方」は“見る方法”であり、中国語の『见方』は“四方の大きさを見る”でした。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第199回)

「情緒」

日本語の「情緒がある」或いは「情緒が溢れている」との表現について若し「情緒」とは何かと聞かれるとその“何となくその雰囲気がいよことなのだ”と答えるのが精一杯で、具体的に「情緒」とは何かを説明できずに戸惑ってしまいます。辞書その他を含

めた書物を見た結果、著者の独断で説明すると下記の2つになるでしょう。

- * ある事柄や場所に触れて心の中に起こるさまざまな感情と、それを起こす雰囲気
で、以下「心の中に起こる感情とその雰囲気」と略称します。
- * 怒り、恐れ、喜び、悲しみなどの急激な感情の動きで、同時に泣いたり笑ったり
と顔を変えるような身体的変化及び呼吸や脈拍などが変化する生理的变化を伴う場
合があります。以下「急激に起こる感情、エモーション」と略称します。

それぞれの用例は下記のとおりです。

① 「心の中に起こる感情とその雰囲気」の用例；

「あの方はすごく情緒のある方だ」が『他是一位谈吐幽雅而富有诗意的人』、
「月を見て一杯やるのはなかなか情緒があります」が『一边赏月，一边喝酒是很
有诗意的』、
「江戸下町の情緒を心ゆくまで味わった」が『我尽兴品味了江戸平民地区的情趣』、
「京都の町にはまだまだ日本情緒がたくさん残っている」が『京都还遗留着不少
日本风情的地方』、
「彼は情緒溢れる景色に接して一瞬あっと驚いた」が『他看到充满情绪的景观的
一瞬间吃了一惊』、
「奈良は古都の情緒豊かな町だ」が『奈良是一个充满着古都情调的城市』です。

② 「急激に起こる感情、エモーション」の用例で、この場合は中国語も『情緒』が
使われます。

「彼女は近ごろどこかしら情緒が不安定だ」が『她最近有点儿情绪不稳定』、
「彼は情緒障害の幼児を持っている」が『他有一个情绪障碍的幼儿』
「彼女は情緒不安定で、何でもないことにも直ぐ泣き出す」が「ta 的情绪不稳定，
就算大不了的事也马上哭起来』です。

中国語の『情緒』には、日本語の例②にあった「急激に起こる感情、エモーション」
で日本語と同じ意味があると共に、併せて「不愉快な気持ち、嫌な感じ」の心理状態を
表わす意味と、ある活動をしているときの「意欲、気分、気持ちの高ぶり」を表わす意
味があります。

① 「不愉快な気持ち、嫌な感じ」の心理状態を表わす用例；

『闹情绪』は、「気をくさらせる、仕事に嫌気がさす、不満を持つ、やけを起こす、
憂鬱になる、ヒスを起こす」などの場合に使われます。

『他最近老闹情绪，真受不了』が「彼は最近何時もやけを起こしており、全くやり
きれない」、

『老闹情绪，有什么用』が「何時もいらいらしたって、しょうがないじゃないか」、

『大家对他那样处理都有情绪』が「みな彼のその処置に不満を持っている」、

『这次他又没分到房，有点儿情绪低落』が「彼は今回も社宅の割り当てがなかった
ので、気分が落ち込んでいる」です。

② 「意欲、気分、気持ちの高ぶり」の場合の用例；

『工人的情緒很高』が「労働者の意欲が非常に高い」、

『他这阵子情绪不好, 有什么心事吗?』が「彼は近ごろ機嫌が悪いが、何か心配事でもあるのか」、

『老师夸他一两句, 就来情绪了』が「先生からちょっと褒められたので、彼は乗り気になっている」、

『听到前线胜利的消息, 群众情绪更加高涨了』が「前線の勝利の知らせを聞いて、大衆の気分が高まった」

中国語の『情緒』は日本語の「急激に起こる感情、エモーション」を意味する場合の「情緒」を除いて、異なる意味を持っています。実は1881年(明治14年)に井上哲次郎その他の方々による編集で「哲学字彙」という日本で最初の哲学辞典が刊行され、その中で英語の[emotion]という語彙に日本語の「情緒」を充当しました。中国では明治時代から日本が作った「経済」や「人民」などの英語の漢字訳をそのまま導入して使っており、「エモーション」を意味する『情緒』も日中双方で同じく使われているところからみて、その一つかも知れません。

なお「情緒」の正式な発音は「じょうしょ」で「じょうちょ」ではありません。漢和辞典には、「情緒」の発音は漢音の「じょうしょ」であり、「じょうちょ」は誤読であると明確に書かれています。また「緒」について漢音は「しょ」、呉音は「じょ」であり、「ちょ」という発音はないと明記してあります。ただ辞書によっては「じょうちょ」は“慣用読み”であるとの記載や、また「じょうちょ」があつて「じょうしょ」のない辞書もありました。一番面白かったのはスーパー大辞典で、「情緒」の欄に“じょうしょ”は“じょうちょ”の老人読みである」と記載されていました。これに類する言葉は「端緒、緒戦、緒言」などあり、既に“慣用読み”と認められているので、「ちょ」と読んでも「しょ」と読んでもどちらでもよいと思います。ご参考までに記しました。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第200回)

「正当」

日本語の「正当」について、「正当な理由」とは“まともな正しい理由”とのことですが、その他「正当な手段」とは“合法的手段”であり、「正当な評価」とは“公正、或いは正確な評価”を意味しています。日本語の「正当」の用例は下記のとおりです。

- ① 「正当な、まともな正しい」場合には、中国語も『正当』が使われ、用例は下記のとおりです。

「これは正当な理由です」が『这是正当的理由』、
「正当な理由のない休暇は認められない」が『如无正当理由，不准请假』、
「あくまでも正当防衛を主張する」が「始终坚持自己是正当防卫」です。

② 「合法的」の意味の場合の用例；

「彼女は何とか自分の身分を正当化しようとしている」が『她正在想办法使自己身分合法化』、

「本問題は正当な手段で解決する」が『这个问题用合法的手段解决』、

③ 「公正、正確である」との場合の用例；

「正当な評価を行う」が『给与公正的评价』

「我々は正当な評価を要求する」が『我們要求公正的评价』、

「社員の能力を正当に評価する」が『正确评价职工的能力』です。

中国語の『正当』には2つの意味があり、その場合の『当』の発音が違います。それぞれの用例を含めた説明は下記のとおりです。

① 「正当な、まともな正しい」場合の『正当』では、『当』の発音が第四声になります。使われ方は日本語の用例①と同じですが、ここでは“人柄がよい、まともである”の例を挙げましょう。

『这个人不太正当』が「この人はあまりまともではない」、

『我看那个人鬼鬼祟祟的有点儿不正当』が「あの人はこそこそしていて、どうもうさんくさい」です。

② 「ちょうど～～の時に当たる」としての『正当』で、時を表わす語句の前に用いることが多く、この場合には『当』の発音が第一声になります。

『正当人手缺乏的时候，他们来了』が「ちょうど人手が足りない時に、彼らがやって来た」、

『正当我要出门时，电话铃响了』が「ちょうど私が出かけようとした時に、電話が鳴った」、

『目前正当春耕的时候，农活正忙』が「目下ちょうど春の耕作期に当たり、野良仕事忙しい」です。

さて中国語の『正当』の複合語として、『正当年』、『正当时』、『正当中』があり、それぞれの意味と用例は下記のとおりです。

① 『正当年』は「少壮有為の年齢、ちょうど年頃」の意味です。

『十七、八力不全，二十七、八正当年』が「十七、八才はまだ力が弱く、二十七、八才がちょうど盛りの年だ」、

『现在五十岁正当年，不能说老』が「今では五十才が働き盛りであり、老人とは言えない」です。

② 『正当时』は「ちょうどよい時節に当たる」の意味です。

『现在去看红叶正当时』が「今が紅葉狩りのちょうどよい時節だ」、

『清明踏青正当时』が「清明節の頃はピクニックに最適の時節だ」です。

Archive (中国語で誤解しないように 第151回～2000回)

第151回 2011年11月9日

最終回 第200回 2015年3月10日

③ 『正当中』は「ちょうど真ん中に、中央」の意味です。

『左右各三個人，他坐在正当中』が「左右各三人ずつ居て、彼はちょうど真ん中に座っている」、

『广场的正当中有一个噴水池』が「広場の中央に噴水がある」です。

日本語も中国語も「正当」についていろいろな使われ方があり、日中同字異義語としてたいへん面白い例です。

・
・
・